東日本大震災と日本フィルハーモニー交響楽団

日本フィル
「被災地に音楽を」
活動の記録　Ⅱ

2012年4月～2013年6月まで

付録：活動の記録 Ⅰ（2011年4月～2012年3月まで）

～「音楽家に何ができるか」を問いながら～

「3・11」から2年5ヶ月

「忘れてはいけない」と、心に刻むこと

～私たちは「被災地に音楽を」送り続けます～

東日本大震災復興祈念事業「カンタータ大いなる故郷石巻」公演（2013 年 6 月 23 日石巻市総合体育館）

３・11 から２年５ケ月が過ぎました。

東日本大震災が起こったその日、私たちは定期演奏会本番で、多くの団体が公演を中止する中で公演を行いました。そして、1 週間後には「香港音楽祭」に参加、現地の多くの人々や音楽関係者からあつい励ましを受けました。「音楽の持つコミュニケーションの力、励ましの力、希望の力、生きることの意味を分かち合いたい」というメッセージに会場が一体となりました。

そのメッセージは、帰国後すぐに「被災地に音楽を」送る活動へと具体化されました。「現地へ行って、音楽で励ますこと」に多くの方々に賛同していただき、これまでに寄付金は 700 万円を超えました。演奏会会場で東北出身の方に呼びかけました。「あなたの親戚や友人、知り合いの方で、音楽を必要としている受け入れ先があれば、日本フィルはメンバーを派遣します。」と。たくさんの情報がよせられました。「南三陸の避難所の炊き出しメンバーを音楽で応援したい」「南相馬の中学校の吹奏楽を応援してほしい」「福島の避難している子どもたちを励ましてほしい」「飯館村の人たちの仮設住宅に行ってほしい」「石巻で音楽による復興を願うアマチュアオーケストラを応援してほしい」…よせられた希望には、ほとんどこたえるようにしました。日本フィルのスケジュールを調整しながら、メンバーを募集して被災地での演奏にボランティアで参加してもらいました。

被災地での演奏は通算で 113 回となりました。被災地へ実際に足を運んだ日本フィルメンバーは２年５ヶ月間で、のべ480 名となりました。

死者 18,131 人、行方不明 2,829 人（2013 年 1 月２３日現在消防庁調べ）。避難生活者は 315,196 人（2013 年２月７日現在）。その内、居住していた県から他県に避難している方は、福島県から 57,135 人、宮城県から 7,981 人、岩手県から 1,627 人。

もう２年、まだ２年、時間のカウントは人それぞれですが、この数字を、しっかり事実として受け止めなければいけないと思います。

２年半を経た被災地の状況は複雑です。津波の被害を受けた地域では遅々として進まぬ「移転計画」に、高齢者のみなさんの「このまま仮設住宅住まいで人生を終わるのか」といった声をききます。２年以上も故郷を離れた土地に住むと、「もどることに期待をしなくなる」とも。原発被害の福島の状況は、もっと複雑です。逃げた人、逃げなかった人の心の確執、同じ町のなかでの補償金の違い、どんどん除染がすすめられる故郷にもどるかどうか、子どもをどう守るか、相変わらずばらばらに暮らしている家族のきずなをどう守るか、風評被害のなかでどうやって地域の農業や漁業を守るのか、…福島から遠く離れて暮らしている私たちが、容易に立ち入ることのできない深い悩みと苦しみが横たわっています。

戦後の日本を襲った大震災の「復興」は、被災地に行けばいくほどますます困難な状況に直面していると感じます。この先５年、10 年で終息するとは思えません。

今、なぜ「被災地に音楽を」送り続けるのか、私たちはこのように考えます。

① 被災された方たちに「みなさんのことを忘れていない」ことを伝え、激励すること。
② 私たちが、訪問して演奏して見たこと感じたこと、まだ圧倒的に多数の方々が圧倒的に不便な仮設住宅で生活されていることを、被災地以外の人々に伝えること。
③ 演奏家自身が、「音楽に何ができるか」を自らに問いながら「忘れてはいけない」と心に刻むこと。

私たちは、多くの皆様から寄せられた募金をもとに被災地を訪問した活動の様子を、レポートにまとめ、これまで第 20 号までを発行し、コンサート会場等で配布してきました。本誌「活動の記録Ⅱ」の 26 頁以降（募金呼びかけチラシ、第１号～第 10 号）は、「活動の記録 Ⅰ」（2012 年6月1日発行）のバックナンバーとして添付いたしました。併せてご一読いただければ幸いです。

被災地に音楽を　決算報告（2011 年 4 月～2013 年 8 月）

収入

募金総額	7,339,331 円	

支出

旅費・宿泊費	1,478,582 円	
演奏経費	20,000 円	編曲料
エキストラ出演料	310,000 円	
印刷費	2,138,086 円	募金チラシ、ニュース、報告集等
雑費	359,481 円	演奏者食事代等
合計	4,306,149 円	

残	3,033,182 円	

＊企業法人、財団などの助成を受けて派遣した費用は含まれません。

（公財）日本フィルハーモニー交響楽団「被災地に音楽を」プロジェクト

日本フィル 「被災地に音楽を」 実施一覧（2011年4月6日～2012年3月30日）

開催日		会　場			編成	出演者名	掲載レポート
2011年	4月6日	福島県	二本松市	東和文化センター	Vn・Va・Tb	松本・後藤・伊波	
	5月4日	福島県	会津若松市	文化センター	弦楽四重奏	本田・豊田・高橋・山田(智)	第1号
	5月6日	埼玉県	加須市	騎西小学校(含、福島双葉町児童)	弦楽四重奏	山田(千)・豊田・高橋・山田(智)	
	5月8日	宮城県	名取市	増田西小学校(避難所)	Vn・Key・尺八	松本・【相馬・林】	
				閖上地区日和山			
				文化会館(避難所)			
	5月9日		気仙沼市	階上中学校(避難所)	Vn・Key	松本・【相馬】	
				松岩公民館(避難所)			
				面瀬中学校(避難所)			
	5月10日		石巻市	石巻高校(避難所)			
				湊小学校(避難所)			
				門脇中学校(避難所)			
				石巻中学校(避難所)			
				北上子育てセンター			
	5月12日	埼玉県	加須市	騎西中学校(含、福島双葉町生徒)	金管五重奏	星野・只友・原川・藤原・柳生	
	6月4日	岩手県	花巻市	山の神温泉「幸迎館」(避難所)	Vn・Vc	大石・三好	第2号
	6月5日		釜石市	甲子中学校(避難所)			
	6月6日		大船渡市	リアスホール(避難所)			
	6月5日	福島県	三春町	田園生活館(避難所)	弦楽四重奏	山田(千)・辻野・高橋・山田(智)	
	6月6日			町営体育館(避難所)			
				三春町小学校			
	6月25日	福島県	南相馬市	鹿島保険センター(避難所)	弦楽四重奏	三好・遠藤(直)・菊田・大石	第3号
	6月26日			原町第二中学校(避難所)			
				道の駅南相馬(避難所)			
				原町第一小学校(避難所)			
	6月25日	福島県	二本松市	JICA研修センター(避難所)	Cl・Ob・Fg	坪池・芳賀・田吉	
				あだたら体育館(避難所)			
	6月26日		大玉村	フォレストパークあだたら(避難所)			
	7月10日	宮城県	南三陸町	志津川高校(吹奏楽クリニック)	金管＆木管五重奏	オッタビアーノ・星野・原川・藤原・西口・芳賀・【仙台フィル：芦澤・西沢・水野】	第4号
				ホテル観洋(避難所)			
	7月11日			志津川中学校(吹奏楽クリニック)			
	8月6日	宮城県	気仙沼市	日本バプテスト教会	弦楽四重奏	斎藤(千)・坪井・新井・久保	
				小泉中学校(避難所)			
				階上小学校(避難所)			
	10月4日	宮城県	東松島市	鳴瀬第一中学校	弦楽四重奏	松本・加藤・新井・久保	第5号
			石巻市	北上中学校			
	10月5日			石巻専修大学(学生ホール)			
				あとりえDaDa			
				追分温泉(避難所)			
	10月6日		仙台市	泉白陵会(介護施設)			
	10月7日			愛泉会(障害者施設)			
	10月20日	福島県	いわき市	江名中学校	弦楽四重奏	三本・新井・山下・奈切	第6号
				江名中学校(吹奏楽クリニック)	Tb	伊波	
				下神白第一集会所	弦楽四重奏	三本・新井・山下・奈切	
	10月21日			内郷第二中学校			
	10月26日	茨城県	大洗町	南中学校	弦楽四重奏	九鬼・坪井・後藤・大澤	第7号
				第一中学校			
	11月21日	岩手県	陸前高田市	第一中学校	弦楽四重奏	斎藤(千)・太田・菊田・大澤	第8号
	11月22日		花巻市	山の神温泉「幸迎館」			
	11月24日	福島県	松川町	みず和の郷(介護施設)	弦楽四重奏	三本・中村・山下・奈切	第7号
				飯野学習センター			
	11月25日			松陵中学校			
				南体育館(研修室)			
2012年	1月20日	岩手県	久慈市	山村文化交流センター	弦楽五重奏	平井・遠藤(直)・高橋・大石・成澤	第9号
				県立久慈病院			
	1月21日			文化会館(小中学生対象)	室内合奏団+Pf×２	平井・遠藤(直)・高橋・大石・成澤・渡邊・日比野・遠藤(功)・福島・【中井・武田・江原】	
	1月22日			文化会館(親子対象)			
	3月27日	福島県	南相馬市	原町第一中学校(吹奏楽クリニック)	Fl・Cl・Tp・Hr・Tb	藤田・蒲谷・杉本・原川・岸良	第10号
	3月28日		伊達市	桃陵中学校(吹奏楽クリニック)			
	3月29日		南相馬市	鹿島中学校(吹奏楽クリニック)		藤田・蒲谷・星野・原川・中根	
	3月30日			原町第二中学校(吹奏楽クリニック)			
	3月28日	福島県	三春町	三春小学校	Vn・Va・Vc・Tb	佐々木・中川・江原・伊波・【マイク・スペンサー】	
	3月28日	埼玉県	加須市	騎西コミュニティセンター(含、福島双葉町民)	弦楽四重奏	神尾・豊田・高橋・山田(智)	

開催日		会　場			編成	出演者名	掲載レポート
2012年	5月20日	宮城県	南三陸町	志津川中学校	弦楽四重奏	西村・遠藤（直）・菊田・中務（幸）	第11号
				ホテル観洋ロビー			
				さんさん商店街			
	5月21日			南方仮設住宅集会所			
	6月17日	山形県	米沢市	八幡原体育館	木管五重奏	坪池・赤木・芳賀・田吉・原川	第12号
				市体育館ほか（クリニック）	Cl・Ob・Fg・Hr	坪池・芳賀・田吉・原川	
	8月7日	宮城県	石巻市	北上中学校	弦楽四重奏	松本（克）・坪井・後藤・大澤	第13号
	8月8日			同校体育館(岡崎市立城北中			
				「あとりえDaDa」			
	8月9日			「こ～ぷのお家 いしのまき」			
	8月26日	宮城県	南三陸町	さんさカフェ出版会	Tb・Tu	藤原・柳生	
	9月19日	福島県	福島市	平野中学校	弦楽四重奏	三本・辻野・山下・奈切	第14号
				市商工会（福島市音楽堂）			
	9月20日			松川工業団地（第1仮設住宅集会所）			
				（第2仮設住宅集会所			
	9月21日			飯野中学校			
	9月30日	東京都	江東区	カトリック潮見教会	金管五重奏	星野・多田・北山・岸良・西口	
	10月24日	福島県	南相馬市	鹿島小学校	弦楽四重奏	大貫・加藤・高橋・山田（智）	第15号
				農家民宿いちばん星			
	10月25日			市民文化会館「ゆめはっと」			
				同上ウェルカムコンサート			
	10月26日			三春小学校			
			いわき市	江名中学校	弦楽四重奏・Tb	大貫・加藤・高橋・山田（智）・岸良	
	10月27日			江名中学校吹奏楽指導	Tb	岸良	
				内郷第二中学校	弦楽四重奏	大貫・加藤・高橋・山田（智）	
	12月14日	茨城県	茨城町	明光中学校	金管五重奏	橋本・中里・伊藤（恒）・岸良・柳生	第16号
				梅香中学校			
	12月15日	福島県	いわき市	双葉高校、双葉翔陽高校、富岡高校サテライト校　吹奏楽指導	金管五重奏・Cl・Per	橋本・中里・伊藤（恒）・岸良・柳生・蒲谷・遠藤（功）	
			小名浜市	小名浜市民会館			
2013年	3月3日	宮城県	石巻市	石巻市役所（市民サロン）	弦楽四重奏	田村・太田・中川・久保	第17号
	3月4日			「こ～ぷのお家 いしのまき」			
				女川野球場仮設住宅			
	3月5日			みなと荘			
	3月21日	宮城県	南三陸	志津川中学校	Cl三重奏	伊藤（寛）・中里・竹内	第18号
				志津川中学校（クリニック）	Cl	伊藤（寛）	
	3月22日			南方仮設住宅集会所	Cl三重奏	伊藤（寛）・中里・竹内	
	4月3日	福島県	南相馬市	原町第2中学校	Fl・Cl・Tp・Hr・Tb・Per・ユーフォ	藤田・平塚・星野・伊藤（恒）・岸良・遠藤（功）・黒沢	
	4月4日			鹿島中学校			
	4月5日			石神中学校			
	4月6日			原町第1中学校			
	5月27日	岩手県	下閉伊郡	田野畑村　田野畑中学校	弦楽四重奏	三好・新井〈布〉・山下・大石	第19号
				田野畑アズヴィーホール			
	5月28日			普代村うねとり荘			
				普代中学校			
	5月29日		九戸郡	野田村　野田小学校			
	6月16日	岩手県	大船渡市	宮田応急仮設住宅	弦楽四重奏	遠藤〈直〉・坪井・新井・中務	第20号
	6月17日			気仙光陵支援学校			
				上平応急仮設住宅			
	6月18日			御喜来小学校			
	6月23日	宮城県	石巻市	石巻市総合体育館	室内合奏団	田村・山下・越智・太田・平山・安部・中川・松本・久保・岡崎・菅原・松岡・蒲谷・吉本・中根	

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜ 第１１号 ＞

2012年6月

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【被災から１年。南三陸＜さんさカフェ＞の応援に行きました】

東日本大震災から１年が過ぎ、被災地ではさまざまな「前向き」なネットワークができ始めています。５月 20 日、21 日の２日間宮城県南三陸町の共同食堂＜さんさカフェ＞への応援に行きました。

昨年７月に、日本フィル金管五重奏のメンバーが仙台フィルの木管メンバーとともに、南三陸町志津川中学校と志津川高校のブラスバンドのクリニックと合同演奏に行っています。多くの方々が蒸し暑い体育館の避難所で暮らしていて、雑然とした環境のなかでも子どもたちが一緒に音を出す喜びを身体中で表現していたのを思い出します。この志津川高校避難所で運営スタッフとして、炊き出し等を行ってきたメンバーが中心となり、避難所が閉鎖になったあと６ケ月後に、「みんなが気楽に集まれる場所」をと、共同食堂＜さんさカフェ＞をオープンしました。

＜さんさカフェ＞のみなさん

（追悼のモニュメントとなった防災センター）

被難所から仮設住宅へと生活を移し、更に地域コミュニティが分散する事となった被災地において、復興への足掛け、また地域住民の拠り所となるべく共同食堂は、

★被災者住民自らが運営していきます。
★食の提供とともにコミュニティセンターの役割をめざします。
★社会的弱者・マイノリティーに開かれた場所をつくります。
★炊きだし、仮設住宅訪問など救援・復興ボランティアの拠り所としていきます。
★地域の協同した生活づくりを支援していきます。
★第二、第三の「共同食堂」が被災地各地に広がっていくことをめざします。

という目標を掲げ出発しました。

今回の訪問者は弦楽四重奏、ヴァイオリン西村優子、遠藤直子、ヴィオラ菊田秋一、チェロ中務幸彦の４人のメンバーです。19 日に定期演奏会を終えたその足で東北新幹線に乗り、くりこま高原下車ののち、南三陸へ向かいました。闇の中の道を走り、ホテルに到着。

翌朝は 10 時に最初の会場の志津川中学のホールで綿密なリハーサル。高台にある学校の校庭からの風景は昨年から全く変わっていません。瓦礫が整理され、家並みは土台を残すのみとなり、人影はみあたりません。志津川町は町民 18,000 人のうち、1,000 人以上の方が死亡・行方不明、4,000 人が家を流されました。校庭の半分は仮設住宅となり、元気のいい女子たちがソフトボールの試合をしていました。

（校庭の半分は仮設住宅、ソフト部の練習）

昼食は＜さんさカフェ＞へ。外装はプレハブづくりですが、内部はシックで暖かい雰囲気です。４ 時間かけてていねいにつくるのがご自慢のかつカレーも日替わり定食も 500 円の廉価でした。お昼時でたくさんの人が昼食におとずれ、外のウッドデッキも満席といった状況でした。

午後２時からはホールでコンサート。
志津川中学ブラスバンド部部員や高校の部員、運動場内の仮設住宅からの参加者も加え、約 100 人の方々が、バッハ：主よ、人の望みの喜びよ、ヴィヴァルディ：「春」、サン＝サーンス：「白鳥」、池辺晋一郎、吉川和夫、寺嶋陸也、萩京子、林光：さくら変奏曲、モーツァルト：アイ

ネ・クライネ・ナハト・ムジークなどに耳を傾けました。
学校は隣の戸倉中学と統合されたばかりで２つの中学が併存しているということでしたが、昨年と比べると校内がきれいになり、落ち着いた雰囲気になっていました。

夕方５時からは、南三陸ホテル観洋のロビーでコンサート。海を見下ろす高台にあるこのホテルは 1300 人を収容できる巨大なホテルで、２F までを津波でさらわれながらも、震災後は 800 人の方がこのホテルに「住んでいました」。私たちが滞在中は「復興支援」のタイトルの旅行団やボランティアグループ、業者などが大勢宿泊していました。

ロビーからは眼下に太平洋の絶景が静かに広がり、この海が盛り上がり、町を襲い多くの人々の命を奪ったとは信じられない風景です。コンサートが始まり、ロビーに弦の響きが広がるとたくさんの方が足を止め、椅子に座って 1 時間のコンサートを楽しみました。＜さんさカフェ＞のスタッフも加わって聞いています。コンサート終了後にはメンバーと記念写真を撮る観光客もいました。

（ホテルロビーから見る南三陸の海）

（ホテル観洋ロビーコンサート）

夕方のコンサートが終了すると、夜の部はカフェのスタッフと家族の慰労会です。「さんさん商店街」の居酒屋「はしもと」で食事会が開催されました。７人の子どもたちも含めて総勢 28 人の交流会となりました。スタッフのあっけさんが作るブログにはこんな感想が書かれています。

「嘘のような本当の話です。なんて素敵な企画でしょう？！お言葉に甘えてスタッフとその仲間達で日フィルさん、ニコスさんと一緒にお料理を堪能させていただきました。サプライズとしてコンサートに行けなかったスタッフの為にとお店で演奏をしてくださって…いやぁ～贅沢です…今回は子ども達も一緒だったので子ども達向けにと「ビリーブ」という曲を演奏してくれたのですが…これ、卒業ソングなんですよね。幼稚園とか小学校の。子ども達も知っているようで演奏に合わせて歌うんです。おっと、子どもの歌声を聴いたら急に涙のスイッチが入ってしまって…みんなもいるのに涙がポロポロ…悲しい訳ではないのです。いろいろな思いが込み上げてきたのでした。子どもの歌声には要注意です…」

（懇親会での演奏）

＜さんさカフェ＞の人達は家族や知り合いをなくし、家をなくし、励ましあいながら避難所生活を送ってきた人たちの、お互いの心の内を知り合った「やさしさ」が溢れている大きな家族でした。

翌日は海から内陸へ車で 45 分ほど移動した登米市の南方仮設住宅へ。ここには 350 世帯 1000 人の志津川町の方々が住んでいます。仮設住宅自治会が主催して集会所でコンサートを開催していただきました。自治会長さんが 11 時開演にむけて、ハンドマイクで仮設内の家々の通路を歩いて案内していました。孤立させない、外に引っ張り出す、交流する。住民のみなさんのこんな自治活動が大切なんだと思います。コンサートには用意した席がほとんど埋まり、参加されたみなさんから大きな拍手をいただきました。

この活動は三菱 UFJ ニコスが、日本フィルの「被災地に音楽を」の活動を Partner スペシャルとして支援してくださいました。

＜本号記載の訪問先＞

５月 20 日宮城県南三陸町志津川中学校ホール
ホテル観洋ロビー
さんさん商店街
21 日　同町南方仮設住宅集会所

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【米沢市で木管五重奏と地元コーラス隊との共演、そして吹奏楽クリニック】

米沢市(山形県)には福島市・伊達市などから、主に「父親が福島県内の職場に通勤できる範囲で、放射能から子供を守るため出来るだけ遠くに住みたい」等の希望もあり、約 3,700 人の方々が避難されています。また海岸沿いの南相馬市から移られた方もいらっしゃいます。3,700 人のおよそ半数が未成年のいる家族で、特に未就学の児童だけで約 700 人にもなるとのこと。原発事故により避難先を福島県外に求めた皆さんを、音楽で励まそうと日本フィル木管五重奏団が、6月 17 日米沢市内の体育館でコンサートと、地元高校の吹奏楽部生対象のクリニックを行いました。

（木管五重奏の演奏）

メンバーは、この３年の内に日本フィルに入団した坪池泉美(オーボエ)、芳賀史徳(クラリネット)、田吉佑久子(ファゴット)、原川翔太郎(ホルン)というフレッシュな面々と、赤木香菜子(賛助：フルート)の５人。それから、地元のアマチュア・コーラス隊「HAPPY 愛 LANDS」のみなさん 15 人との共演もありました。このコーラス隊は、原発事故により南相馬市・福島市・伊達市などから米沢に避難している、幼児から小中学生・その親たちなどで結成されました。
「わたしたちを受け入れてくださった米沢に感謝の気持ちを込めて、また避難してがんばっている仲間たちへエールを送りたいと、愛をこめて歌っています」とのこと。

前日から宿泊している市内のホテルを朝９時前に出発し、市内の八幡原体育館で私たちを出迎えてくれたのは、安部米沢市長、米沢市役所健康福祉部の菅野部長、芳村こども課長補佐、そしてコーラスの「HAPPY 愛 LANDS」の皆さんと、今回の公演をサポートしていただいた三菱 UFJ ニコスのボランティア・スタッフの方々。

11 時開演のため、早速、フラットな床に特別に設けられた舞台で、日本フィルメンバー単独演奏のリハーサル。そして子供８人と、おかあさん７人からなるコーラス隊の皆さんとの合せ、と続きます。コラボレーションは、アンコール含め４曲、それぞれ歌の出だしのタイミングや、繰り返しの場所等を入念に確認し、特に地元の方の作詞作曲による合唱曲「たからもの」は、作曲された森直子氏のピアノ伴奏も交え、気が付けばもう開場時間が迫っていました。

（コーラス隊との共演）

本番は、カラードレスが華やかな女性３人を含むメンバーが舞台に上がり、冒頭に米沢市長から挨拶をいただき、プーランク「ノベレッテ」で開演です。オーケストラでも個性豊かな音色を響かせる木管楽器のアンサンブルは、体育館の空気を一瞬にして華やかに包みました。坪池の進行でイベール「ディベルティメント」や、「花いちもんめ」「浜辺のうた」「村祭り」「ふるさと」といった日本の歌も、時に軽快に時にしっとりと奏され、合間に挟んだ楽器紹介も大好評。
「ドレミのうた」が子供の表情を和ませた
「サウンド・オブ・ミュージック」
メドレーは、いつ聴いても世代を超えて楽しめる名曲です。

第２部はいよいよ「HAPPY 愛 LANDS」との共演です。お揃いのＴシャツも鮮やかに、元気いっぱいの声と身振りで「世界に一つだけの花」、歌詞が胸にせまる「ビリーブ」。震災を機に生まれた、米沢在住の伊藤範作詞・森直子作曲による、明るい曲調ながら歌詞カードを読むと胸こみ上げるものを抑えられない、合唱曲「たからもの」が、精一杯の歌声で披露されました。

アンコールは「見上げてごらん夜の星を」、透き通った子供たちの歌声に会場には、思わず目頭を押さえる姿も…。あっという間の１時間、お客様から心からの大きな拍手が舞台に贈られました。終演後、ロビーでは出演者全員で記念撮影。日本フィルのメンバーとの束の間の交流に、別れを惜しみ思わず涙ぐむ、コーラスのおかあさんの姿も…。

「《たからもの》はオリジナルで知らない曲なのに、凄く綺麗に合わせて演奏してくれて感動しました。 素晴らしい人達と一緒に歌えて子供達や自分にとってもとても素敵な経験ができ、良き思い出になりました。これからの避難生活の励みとして、《ハッピー愛ランズ》頑張りたいと思います。 素敵な時間をありがとうございました。」等の感想をいただきました。

「たからもの」　（作詞：伊藤範　作曲：森直子）

１
音のしない街　船のない港
誰もいない仕事場　失くなった我が家
さよなら　さよなら
みんな　さようなら
失くして気が付いた
みんな大事だった　みんな
失くならないもの　探した
気付いた　見つけた

あった　あった
あった　大事なものが
失くしたくない　いつまでも
あった　あった
あった　大事なものが
失くしたくない　いつまでも

２
散らばった家族　さまよう牛たち
泥にまみれた校舎　崩れ去った野山
さよなら　さよなら
みんな　さようなら
失くして気が付いた
みんな大事だった　みんな
壊れたりしないもの　探した
気付いた　見つけた

あった　あった
あった　素敵なもの
壊したくない　いつまでも
あった　あった
あった　素敵なもの
壊したくない　いつまでも

壊さない　壊さない
素敵なあなた　たからもの
（以下　省略）

休憩の後は、米沢東高校と米沢商業高校の吹奏楽部生へのクリニックです。クラリネット２人・オーボエ３人・ファゴット２人・ホルン２人を対象に、楽器毎に部屋に別れ、基礎から実践まで、内容の濃いレッスンとなりました。１時間あまりの指導のあと全員が集合し、サプライズとして講師個々による模範演奏にみんな大喜び。

記念撮影では、少々はにかみながもニコニコ顔の高校生に挟まれ、たくさんの出会いと充実した１日をかみしめる、日本フィルメンバーの笑顔がありました。
音楽の、人を励ます力を胸に、日本フィルは被災地への訪問活動を今後も継続してまいります。

この活動は、三菱 UFJ ニコスが、日本フィル「被災地に音楽を」の活動を Partner スペシャルとして支援してくださいました。

＜本号記載の訪問先＞

６月 17 日山形県米沢市八幡原体育館(福島県の避難者含む)
同体育館ほか(吹奏楽クリニック)

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜ 第１３号 ＞

2012年8月

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【宮城県石巻の夏休み～子どもたちの手作り楽器と一緒に演奏～ 女子美術大学とのコラボレーション】

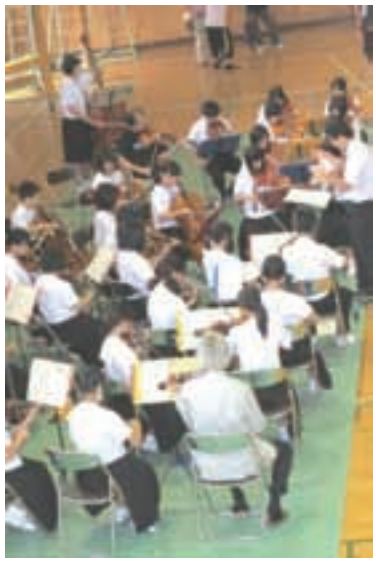
昨年に続き、８月７～９日の３日間、石巻市で杉並区内にある女子美術大学メディアアート、アート・表現学科の学生たち６人とのコラボレーションによる被災地支援を行って来ました。昨年からヒーリングアート表現領域のヤマザキミノリ教授は、学生とともにアートによる支援活動を石巻を定点にして展開してきました。今回のコラボレーションの内容は大人も子供も楽しめる楽器を作るワークショップをコンサートの前に行い、日本フィル弦楽四重奏との共演の場面をつくろうというもの。日本フィル演奏メンバーは、ヴァイオリン：松本克巳、坪井きらら、ヴィオラ：後藤悠仁、チェロ：大澤哲弥の４人でした。

【北上中学校で、となりの仮設住宅の方々へ音楽のプレゼント】

８月７日は夜の公演。会場の北上中学は北上川の下流にあり、遠く対岸には 108 人のうち 74 人が亡くなった『悲劇の学校』大川小学校がポツンと見えます。生存率２割という大川小学校周辺の釜戸地区は壊滅的な被害を受け、目に入るのは学校のみでした。

北上中学校のエントランスにあるアッセンブル・ホールは天井も高く、よく響く会場でした。前日からの夜行バスで、早く着いた女子美術大学の学生たちは、楽器づくりの材料を並べ、準備万端、学校の横にある 仮設住宅に出向き、子どもたちに声かけを行っていました。参加して来た子どもは 6 名、プラスチックコップや紙皿を使い、太鼓・ギロなどを、お姉さんたちと一緒に作り上げました。カルテットに合わせ「さんぽ」で入場、コンサートは子どもたちとの共演で始まりました。演奏曲目は、バルトーク「子どものために」より５つの断章、「荒城の月」、アメリカ民謡「峠の我が家」「シンドラーのリスト」、ハイドン「皇帝」など。仮設住宅からの参加者と、この日に合わせて 11 時間かけてバス２台でやってきた、愛知県岡崎市立城北中学校のオーケストラ部の生徒たちと引率の先生なども参加し、約１００名の方が演奏に聴き入りました。

【岡崎市立城北中学校のオーケストラ部と共演しました】



翌日８日、日本フィルメンバーは朝９時半に北上中学校へ。10 時半からの城北中学校オーケストラ部との共演に備えました。同校オーケストラ部（３１名､他に生徒会 11 名､引率者入れて総勢５７名)は、前日に大川小学校前で追悼演奏を行い、北上中学校に到着しました。８日朝、生徒たちは岡崎の名産品を持って学校に隣接する「にっこりサンパーク応急仮設住宅」の１軒１軒を戸別訪問し、被災された方に直接声をかけ、コンサートへの勧誘を行いました。城北中学校の校長先生の生徒たちへの信頼の上に行われた「体験教育」に、私たちは強い共感を覚えました。

コンサートは体育館で行われ、日本フィルの４人のメンバーは生徒たちのアンサンブルに加わり、ブランデンブルク協奏曲第３番や「パイレーツ・オブ・カリビアン」メドレーなどを一緒に演奏しました。仮設住宅から車椅子で来られた高齢者の方や子ども連れのお母さんなど、約２００名の方々が弦楽アンサンブルを堪能しました。演奏のレベルは高く、生徒たちの意識の高さ、意欲の高さを実感しました。

北上中学校の畠山校長先生の、「震災の日、たまたま卒業式が長引いて、この学校からは生徒の犠牲者を一人も出さなかった。だから自分は元気でいられる。 いいものに触れることのできるあらゆる機会を受け入れ、地域の人たちと共有して行きたい」と語る言葉が、私たちの胸に迫りました。

【「あとりえＤａＤａ」、「こ～ぷのお家　いしのまき」にて】

午後は昨年も訪問コンサートを行った、旧北上川に沿った「川辺の散歩道～あとりえＤａＤａ」へ。周辺は更地が目立ちます。楽器つくりワークショップには、子どもだけでなく大人も参加、総勢で 15 名ほどがさまざまな形の楽器作りに挑戦しました。２時半からのコンサートは「さんぽ」の行進から始まり、「おもちゃのシンフォニー」では、ヴィオラ後藤の「指揮」に合わせて元気いっぱい演奏に参加しました。色鮮やかなタペストリーに囲まれ、約 60 名の参加者は、気持ちのいい午後のひと時を過ごしました。

９日は市内で直接の被害を受けなかった地域にある「こ～ぷのお家　いしのまき」へ。震災後ここは地域のセンターとして、親子料理教室や高齢者のデイサービスなど、さまざまな活動を行ってきました。明るくふんだんに木が使われた広々とした施設は、施設長の丹野さんのやさしい雰囲気も加わり、多くの人に安心感を与えています。この日は近隣の小学校や、目の前にある仮設住宅からの親子連れなどで、ワークショップは大賑わいでした。女子美術大の学生たちのファシリテートも３日目で大きく進歩し、素材を自由に使ってオリジナルの楽器を作らせるようにしました。子どもたちはそれぞれのアイデアで、面白い形の楽器をつくりました。約 30 人の行進ではじまったコンサートは、デイサービスに訪れていた高齢者の方々にも大好評でした。

「子どもたちにとって自分の楽器で参加でき、一流の弦楽四重奏の演奏の中にいたことは、じわじわとその凄さが実感され、一生の宝物のような思い出となることでしょう。珠玉の時間をありがとうございました。」

というお礼のお手紙が、後日届きました。

この活動は、三菱ＵＦＪニコス株式会社が、日本フィル「被災地に音楽を」の活動を Partner Special として支援してくださいました。

＜本号記載の訪問先＞

８月　７日宮城県石巻市北上中学校アッセンブル・ホール
　　８日同校体育館(岡崎市立城北中とジョイント)
　　同市「あとりえＤａＤａ」(協力:女子美術大)
　　９日同市「こ～ぷのお家 いしのまき」(協力:女子美術大)

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【福島市の学校や「飯館村」の仮設住宅へ行きました】

福島県の飯館村といえば、原発爆発事故から２ケ月後の５月に、町役場が苦渋の決断をして「全村避難」を行った村です。日本で一番美しい村をめざし、「までい（真手＝ゆっくりとていねいに）を合言葉に村の特性を生かした農産物をつくり、３世代が同居する村づくりをすすめてきた「先進的な」村でした。事故からすぐに原発近辺から避難した人々を受け入れ、その後村の汚染が極端に高いことを知らされ、逃げ遅れた地域です。それだけで、どんなに悔しい思いをされただろうと想像できますが、「飯館村の仮設住宅」へ音楽を送ることを主な目的に、９月 19 日～21 日まで福島市で５ケ所のコンサートを行ってきました。

演奏メンバーは全員ＯＢの弦楽四重奏メンバー。ヴァイオリン三本克郎、辻野順子、ヴィオラ山下進三、チェロ奈切敏郎のみなさんです。山下、奈切両氏は福島県出身です。

19 日は午後１時半から飯坂温泉に近い福島市立平野中学校（230 人）でコンサート。隣の平野小学校から３年生以上 200 人の児童も参加しました。この日は９月中旬というのにまだ会場の体育館はかなり暑かったのですが、プロの演奏家のコンサートははじめてとのことで、小さな子供達も集中して聴いてくれました。モーツァルト：ディベルティメントやハイドン「ひばり」、寺原伸夫：日本民謡の ３ 曲のほか、子どもたちの好きなジブリ作品「君をのせて」「天空の城ラピュタ」などを演奏しました。最後は校歌と「ビリーブ」元気な声が体育館に響きました。

夜は、昨年もコーディネートをしてくださった福島県商工会協議会県北支部の職員の皆さんのためのコンサートを福島市音楽堂の小ホールで行いました。職員のみなさんは商行業者の経営支援や福祉増進など地域振興事業を行っています。震災以降、お客さんの減少や風評被害などで苦労されている地元商工業者の相談窓口を担っています。家族をかかえながら福島にとどまり、地域のことを考える職員のみなさんも放射能汚染についてはどうにも対処できないという苦悩を抱えていました。「音楽の力」に励まされた、と感想をいただきました。

20 日は飯館村の方々が避難されている松川工業団地仮設住宅へ。朝 10 時半からと午後３時からの２回のコンサートを行いました。住民のみなさんは平均年齢が 80 歳という高齢者が多く、多くの方が家族と離ればなれに暮らしていました。仮設住宅自治会は活発な活動をされていて、健康相談や昼食会などを頻繁に行われ、また端切れ布を使った工作品をつくって販売するなど、「生きがいづくり」も積極的に行っていました。リーダーの佐野さんは、村のすすめる「若妻の翼」事業で、村に嫁いだお嫁さんたちとヨーロッパ旅行も行った経験の持ち主。村では仲間たちとピアノを買い、コンサートも開いてきたそうです。コンサートにはその時の仲間たちもたくさん駆けつけてくださいました。集会所は 50 人くらいの入場者で２回とも満員でした。目の前で聞く弦楽器の調べに浸っていただきました。ビートルズの「ヘイ・ジュード」や「イエスタディ」「ミシェル」も好評でした。

１回目と２回目の間に２時間ほどの休憩時間があり、私たちは空き家となった仮設住宅の一部屋で休憩しました。狭苦しく、薄い壁、床からは風が吹き抜け、本当に「仮」の住まいを実感させるものでした。この間に住民のみなさんと会話をしました。子どもや孫と会えない寂しさや生活の中に緑を育てる喜びがないこと、毎日犬に餌をやりに飯館にかえっていること、飯館にはイノシシが増えたがエサがないからやせ細っていること、猿がいなくなったことなどたくさん語ってくださいました。人懐こく親切な人々で、帰る頃にはおいしい栗ごはんを炊いてくださり、名残惜しい別れをしました。「また来ます！」とメンバー全員が約束しました。

21 日は飯野中学（170 人）と飯館中学（130 人）の合同コンサート。飯館中学は今年 8 月末に仮校舎が完成し、散らばっている生徒たちをスクールバスが送迎しているとのことでした。村の仲間と村のことを忘れさせないという行政の決意の表われです。

会場の飯野中学の体育館には両校の生徒がキチンと座り、静かに鑑賞しました。ここでは最後に両校の校歌を歌いあいました。

【東京に避難されている福島の皆さんに向けて カトリック潮見教会で金管五重奏のコンサートと芋煮とバーベキューの集い】

現在東京には岩手、宮城、福島の３県から 9000 人が避難され、江東区の国家公務員東雲住宅には 600 世帯、1300 人の方が暮らしています。９月 30 日に東雲住宅に近いカトリック潮見教会で、福島から避難されている方たちと結ぶ金管五重奏のコンサートと芋煮・バーベキューの会が行われました。参加は 32 家族 100 名。演奏は金管楽器の紹介も兼ねたオリジナルプログラムと、「トトロ」「魔女の宅急便」「ポニョ」など楽しい曲も加えました。最後は「さんぽ」と「もみじ」の大合唱でしめくくりました。主催は「避難されている方たちと結ぶ江東の会」と「東北サポーターズ」です。

この回を企画したボランティアの方の参加はなんと 60 名。カトリックの信徒さんや地域で医療や労働相談をおこなっているチームや学生たち。ハンドマッサージのグループも。芋煮とバーベキューも盛大に行われました。

この活動は、三菱ＵＦＪニコス株式会社が、日本フィル「被災地に音楽を」の活動を Partner Special として支援してくださいました。

＜本号記載の訪問先＞

９月 19 日福島市立平野中学校
　　福島市商工会　福島市音楽堂
20 日福島市松川工業団地
　　第１、第２仮設住宅集会所
21 日福島市立飯野中学校

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

南相馬市民文化会館「ゆめはっと」でヴィヴァルディ“四季”
１０００人の方が、弦楽合奏を堪能しました。

10 月 25 日少し大きな編成で南相馬市原町のホール「ゆめはっと」を訪れました。南相馬市は津波と原発被害の２重の被災を受けた地域です。町の１/３の地域から市民が撤退し、１ 年半たった現在も多くの人々が目に見えない放射能との闘いと生活再建がままならない不安の中で暮らしています。南相馬市は日本フィルが本拠を置く杉並区と「災害時相互援助協定」を結んでおり、最近では、３ 月に中学校４校の吹奏楽部生に対し、クリニックと合同演奏を行ってきました。震災直後、町内各地区には高い放射線量で特定避難勧奨地点に指定され、未だに除染活動も進まない為、多くの方が福島県外に避難されています。しかし、最近では比較的線量が低くなっているため、帰宅した住民も増えているとのことです。

南相馬市民文化会館（ゆめはっと）は震災後避難所となり、自衛隊の司令部になったホールです。今年に入り、やっと活動を再開し、市民に希望を届けることのできるコンサートが行われるようになり、日本フィルからの「被災地支援」コンサートの申し入れを、大きな期待をもって準備してくださいました。コンサートは１３人編成の弦楽合奏で、メインプログラムはヴィヴァルディ「四季」。ヴァイオリンの独奏はソロコンサートマスターの木野雅之です。アイネ・クライネ・ナハト・ムジークやパッヘルベル：カノン、ロンドンデリーの歌など、豊かな弦の響きを堪能しました。

入場時には、弦楽四重奏による welcome の演奏もプレゼントしました。演奏の最中に震度４の地震があり、びっくりしましたが、全員おじけることなく最後まで演奏しました。「まだ、ひんぱんに余震がありますよ。」というホールの方の言葉に、この地域に暮らす人たちの消えることのない不安を実感しました。「耳なじみのあるプログラムが聴けて嬉しい」「四季全曲を聴くことができてよかった」「当地で一流の音楽を聴くことができて幸せ」「木野さんのお人柄がうかがえた」「一時日常を忘れることができた」などの感想をいただきました。終演後は翌日の三春での公演にむけ、全員バスで郡山まで２時間かけて移動です。

翌日、26 日、三春小学校は、昨年６月に日本フィル「被災地支援」活動の一環として弦楽四重奏で訪問しました。その後３月にはマイク・スペンサーとともに「四季」をテーマにしたワークショップを行っており、今回の訪問で３回目の出会いとなる日本フィルとは、なじみの深い学校となりました。教頭先生はじめ、たくさんの教員と子どもたちが期待に胸ふくらませ、待ってくれていました。三春小学校には弦楽合奏部があり、【世界がひとつになるまで】と校歌の２曲を一緒に演奏しました。１年生から６年生まで元気に大きな声で歌ってくれました。「右に日本フィルの人がいると思うときんちょうしてうまくひけませんでした。でもがんばりました。最後に握手したとき、心臓が止まりそうでした」「一番はじめの曲がはじまったしゅんかんに、とりはだがたつくらいすごかったです」「演奏を見ると迫力があって、それに音の大きさの調整によって印象が変わって聞こえてすごいです」と感想を寄せてくれました。

東京→南相馬→郡山→三春→いわき→東京
走行距離１０００ｋｍを走った弦楽四重奏キャラバン隊

「ゆめはっと」でのコンサートに先立ち、ヴァイオリン大貫聖子、加藤祐一、ヴィオラ高橋智史、チェロ山田智樹の弦楽四重奏組は２４日に、南相馬市立鹿島小学校へ行きました。この学校には原発避難地域の小高中学校と福原小学校、津波被害地域からの真野小学校の３校が同居しています。４つの学校がひしめきあい400 人から 100 人へと生徒が減った小高中学校はプレハブ校舎が運動場に建っていました。運動場も体育館の利用も全部のクラスがパズルのようにして使っているとのことでした。４人の校長先生が調整しあって、体育館で合同コンサートを開いてくださいました。

体育館には４種類の制服を着た子供たち 450 人が座っています。福島出身の山田の司会でモーツァルト：ディベルティメントやヴィヴァルディ：四季より春、会津磐梯山などが演奏され、途中「この曲あてクイズ」にも

たくさんの子どもが手を挙げていました。最後に小高中学生徒会長が「震災や原発事故のことが風化されてしまうのではないか、と不安を感じている私たちにとって、このように気にかけてくださる方がいるということは何よりの心の励みになります。これからも厳しい環境ではありますが、頑張っていきます」と挨拶しました。東京にいると実感できない環境で暮らしている私たちにとって、この言葉は強く胸に響きました。「この子どもたちは、ほとんどが仮設住まい。大抵家族がバラバラで、母と子、あるいは祖父母と子の状態で暮らしている。部活もなくなり、今の環境に慣れてきているが、心に抱えているストレスは大きい」との校長先生の話に、大人の責任を強く感じました。

この日の夜、急きょ「農家民宿」を開こうとしている大きな古い民家の星さんのお宅で 30 人位のコンサートを行いました。近隣の方や新潟県小千谷から福島に支援に来ているＮＰＯ団体の方々と、手作りの食事をごちそうになりながら夜遅くまで交流しました。

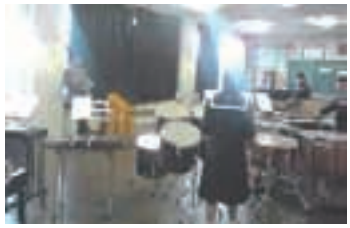
いわき市　江名中学校、内郷第二中学校へ

三春小学校での本番を終え弦楽四重奏チームはいわき市・江名中学校へ。また、東京からトロンボーン.岸良開城も江名中学校へ向け出発。現地にて合流です。太平洋に面したいわき市・江名地区は、あの大震災の日、激しい地震と 4 度にわたる津波に見舞われました。地域の人々はお互いに助け合いながら、高台にある江名中学校に避難し、そこで半年にわたる避難所生活を送ったのです。

今回は、昨年から継続して江名地区へのボランティア支援を継続している“たつみ皆援隊”の皆さんも同行してくださいました。1 年ぶりの訪問です。夜 19:30 という遅い開演にもかかわらず、18:00 から楽しみに体育館で待つ地域の方の姿も。三春町出身・チェロ山田智樹の心のこもったトークでコンサートは進み、弦楽四重奏と Tb.による「誰も寝てはならぬ」は、深い夜の中に美しく響きました。演奏後、お客さまから自然にスタンディング・オベーションが起こり、鳴りやまぬ拍手が楽員を包む感動の幕切れとなりました。目には見えない音楽の力が、多くの方々の胸に清流のように流れ込み、心を潤していることを実感したコンサートでした。

27 日、朝から Tb.岸良は、翌 28 日にアンサンブルコンテスト校内選抜を控えた、江名中学校吹奏楽部の指導に臨みます。吹奏楽が優秀な江名中学校は、何と部内だけで 6 チーム！　岸良先生は、休憩もとらず立ちっぱなしで 3 時間、熱血指導です。

昨年の震災来、多感な思春期の彼らは、どんな思いで日々を過ごしてきたことでしょう。今、吹奏楽部の仲間たちと、かけがえのない学校生活を送る彼らにとって、このアンサンブルが平和な思い出となることを祈らずにはいられません。



また、弦楽四重奏チームは内郷第二中学校へ移動、校内合唱祭へゲスト出演しました。
江名中学校の避難所で類まれなリーダーシップを発揮した大場校長先生（当時）の、現在の赴任校です。昨年に続き、2 年目の出演です。真剣に聴き入ってくださる雰囲気が心地よく、演奏もヒートアップ！　アンコールの AKB メドレーも楽しく盛り上がって締めくくりました。

震災から 1 年半たち、現在、生徒たちも先生たちも、複雑で重たい問題に直面しています。大場校長先生は、「子どもたちの表情を見て、『心には、音楽でしか癒されない部分があるのだな』と感じましたね」とおっしゃっていました。

被災地におけるさまざまな問題は、次第に質を変え、いまだに多くの人々の心を苦しめ、落ち込ませています。

「演奏は、“一度やればいい”のではない、一度関わった地域や人々に対しては、誠意をもって継続して演奏を届け、少しでも彼らの心の支えになりたい」素直にそう思った、いわきでの 2 日間でした。

この活動は、三菱ＵＦＪニコス株式会社が、日本フィル「被災地に音楽を」の活動を Partner Special として支援してくださいました。

＜本号記載の訪問先＞

10 月 24 日南相馬市立鹿島小学校
　　農家民宿いちばん星
　25 日南相馬市民文化会館「ゆめはっと」
　　ウェルカムコンサート
　26 日南相馬市立三春小学校
　　いわき市立江名中学校
　27 日いわき市立内郷第二中学校

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

日本フィル金管五重奏が茨城の中学校で演奏をプレゼント ＮＨＫや茨城新聞で報道され、大きな反響がありました。

12月14日と15日、日本フィル金管五重奏が茨城町といわきの学校を訪問しました。メンバーはトランペット橋本洋、中里州宏、ホルン伊藤恒男、トロンボーン岸良開城、チューバ柳生和大の５人です。東日本大震災で震度６弱を記録した茨城町は幸い死者こそ出なかったものの消防本部や公民館、また桜ヶ丘中学校などが大きな被害を受け、使えなくなりました。道路や上下水道、河川の堤防も被害を受けました。東北地方の津波や原発被害のすさまじさの陰に隠れて、その被害についてあまり注目されてきませんでしたが、日本フィルの「被災地に音楽を」の活動を知り、ぜひ子どもたちに音楽を届けてほしいというリクエストがあり、それにおこたえしました。茨城町町長や教育長からも歓迎の挨拶を受け、町をあげて取り組んでいただいている印象を受けました。

14日は茨城町立明光中学校と梅香中学校の二つの学校で演奏をプレゼントしました。プログラムは金管楽器の紹介しながらアンダーソンやピアソラ、ジャズのナンバーを披露したほか、バーンスタイン「ウエストサイドストーリー」から「マリア」「トゥナイト」「アイ・フィール・プリティ」また、「ジングルベル」などのクリスマスにちなんだ曲も演奏しました。

明光中学校では、震災で体育館の天井パネルが落ちるなどの被害を受けたほか、自宅などが被害を受けた生徒もいて、体育館に響く力強く高らかな音色に生徒たちは聴き入っていました。

梅香中には、校舎が被災したため仮設校舎で学ぶ桜丘中の生徒も招かれました。コンサートの進行も務めた柳生は「元気になってもらえましたか」と呼び掛けました。生徒たちは「震災の時の恐怖と不安、その後も余震のたびに恐怖がよみがえり、体が震えます」「友達と一緒に演奏を聴けることに深い意味があると思いました」とお礼の言葉を述べました。

この模様はＮＨＫの首都圏ニュースで放映され、多くの方から「見ました！」というメッセージを受けました。

原発からいわきに避難　双葉高校・双葉翔陽高校・富岡高校 ３つの高校の合同吹奏楽部の指導と演奏に大きな声援が送られました。

その後、メンバーは常磐線を乗り継いでいわきへ。いわきには、福島第一原発から近い、双葉高等学校、双葉翔陽高等学校、富岡高等学校の３校が、いわき明星大学内のサテライト校に移転し学んでいます。事故後、避難を余儀なくされた生徒たちはさまざまな地域に分散し、現在約１／４の生徒がサテライト校で学んでいます。

３校の吹奏楽部は合同で部活動を続けています。部員は12名ほどですが、私たちは部活に打ち込む高校生の演奏指導に訪れることにしたのです。

指導はトランペット、トロンボーン、ホルン、チューバ、ユーホニウムの他に、この日から打楽器の遠藤功、クラリネットの蒲谷隆行（日本フィルＯＢ）、フルートの藤田真頼（賛助）が加わりました。合計８名で７つの教室に分かれ、朝９時半からほぼマンツーマンの指導が行われました。楽器の構え方、呼吸の仕方など基礎からプロのアドヴァイスを受け、生徒たちの演奏技術はどんどん変化していきます。

このプロジェクトを支援してくださっている三菱ＵＦＪニコスのボランティアのみなさんも、その様子を目の当たりにし、びっくりしていました。

午後からはバスで、小名浜市民会館に移動し、「花は咲く」「マーチ・エープリル・メイ」の合同演奏のためのリハーサルを行いました。12 名の部員に 7 名の日本フィルメンバーが加わり、（指揮は前出の蒲谷）、タイミングを合わせること、曲の雰囲気を共有することなど、ステージの上での音楽づくりを学びました。

３時からの本番には、双葉町、富岡町から避難し、近隣の仮設住宅に住んでいる 50 名ほどの方々が大型バスで来られました。また、１０月に岸良開城が吹奏楽指導に行き、日本フィルメンバーの弦楽四重奏のコンサートを行った江名中学と玉川中学の吹奏楽部の部員のみなさんが大型バス 2 台に乗り込み、約 80 名が駆けつけてくれました。

前半は日本フィル金管五重奏の演奏、後半で３つの高校の生徒たちと日本フィルメンバーの合同演奏が披露され、ブラスアンサンブルのきらびやかで美しい演奏と、故郷を離れて音楽を合奏する喜びに満ちた生徒たちの演奏に大きな拍手が送られました。顧問の先生は「まるで魔法にかけられたようだ。」と興奮気味に語っていました。

リハーサルの最中に２回の震度４の地震が起こり、まだこの地域が度重なる余震のなかにあることを、身を以て知らされました。生徒たちは、仮設住宅や借り上げ住宅から学校へ通ったり、生徒同士で下宿していたりと、様々な生活環境の中にいます。いずれも、家族はバラバラな状態だとのこと。そんな苦境のなかでも学び、大学受験や就職活動に挑んでいます。

私たちは、心ひとつにして音楽を作り上げる喜びのある日常が、多感な青春入口にあるこの生徒たちの将来を照らしてくれることを願ってやみません。

福島県のなかで名門と言われている双葉高等学校、双葉翔陽高等学校、富岡高等学校の３校。ふるさとの校舎に帰る日はくるのでしょうか。
学校生活は３年。いまはほとんどの生徒が２年生以上です。

この活動は、三菱ＵＦＪニコス株式会社が、日本フィル「被災地に音楽を」の活動を Partner Special として支援してくださいました。

＜本号記載の訪問先＞

12 月 14 日茨城町立明光中学校
　　茨城町立梅香中学校
12 月 15 日双葉高校、双葉翔陽高校、富岡高校のサテライト校　吹奏楽指導

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

３・11から２年、私たちは「被災地に音楽を」送り続けます

３・11 から２年が過ぎました。誰もが体験した、あの日の揺れ。次々と報道される津波被害と福島第一原発の爆発におびえた日々。死者 15,879 人、行方不明 2,700 人（2013 年１月９日現在）。避難生活者は 315,196 人（2013 年２月７日現在）。その内、居住していた県から他県に避難している方は、福島県から 57,135 人、宮城県から 7,981 人、岩手県から 1,627 人。

もう２年、まだ２年、時間のカウントは人それぞれですが、この数字を、しっかり事実として受け止めなければいけないと思います。

日本フィルの「被災地に音楽を」の活動も２年が経過しました。今、なぜ「被災地に音楽を」送り続けるのか、私たちはこのように考えます。

① 被災された方たちに「みなさんのことを忘れていない」ことを伝え、激励すること。
② 私たちが、訪問して演奏して見たこと感じたこと、まだ圧倒的に多数の方々が収容所のような仮設住宅で生活されていることを、被災地以外の人々に伝えること。
③ 演奏家自身が、困難な生活を余儀なくされている方々とふれあい、「音楽に何ができるか」を自らに問いながら「忘れてはいけない」と心に刻むこと。

＜日本フィル弦楽四重奏が石巻で演奏をプレゼント＞

～6月 23 日にカンタータ「大いなる故郷石巻」で日本フィルが友情出演～

３月３日から５日まで、宮城県石巻に行きました。今回の弦楽四重奏のメンバーはヴァイオリン田村昭博、太田麻衣、ヴィオラ中川裕美子、チェロ久保公人の４人です。今回の石巻は、６月 23 日に石巻の作曲家故・小杉太一郎さんの作品「カンタータ・大いなる故郷石巻」の演奏会に友情出演する日本フィルが、公演に先だち石巻市民交響楽団と市民合唱団のみなさんを激励することが目的です。１０年ぶりの再演に取り組む実行委員会は、

「石巻をたたえるこの曲を再演することで、まず自分たちが元気になりたい。勇気と誇りをもって新しい街をつくりたい」と語っています。市民会館もホールも津波で流された石巻で、体育館に特設ステージをつくり、ふるさとを賛歌するコンサートを実現させたい、というアマチュア音楽家たちの心意気に、心から拍手を贈りたいと思います。団長の足立さんは「２年経ってやっと音楽に打ち込んでみよう、という気持ちになれました」と語っています。

＜石巻市民オケと合唱団を激励＞

３日は、仮庁舎となった石巻市役所の市民サロンで３時半の開演。リハーサルは議場となっている会議室で行いました。コンサートの前座は地元の二人のピアニストが出演、地震の前に市役所が注文していたピアノがやっとお披露目されました。田村カルテットの演奏は、ハイドン：弦楽四重奏曲「鳥」、ショスタコーヴィチ：「弦楽四重奏のためのアレグレット」など、市民オーケストラと合唱団の皆さんを意識した１時間半のプログラム。じっと目をつぶって聞き入る人も多く、音楽ファンがたくさん駆けつけていました。参加は 100 人で演奏後は「ブラボー！」の声が飛び交いました。

市役所にある町の再現模型で元の家をさがす子どもたち

＜初めて訪れた女川は壊滅的な被災状況＞

４日は２時より、昨年も演奏した「こーぷのお家いしのまき」で。ディサービス利用の高齢者の方に加え、近隣の仮設住宅から６０人ほどの方が参加され、８０人の方が耳を傾けました。プログラムはモーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク「１楽章」、パッヘルベル：カノン、「八木節」や「上を向いて歩こう」、チャイコフスキー：「花のワルツ」など、なじみのある曲ばかり。コンサート後は「桜餅」とお茶のサービスもあり、ホッとするひと時を過ごされました。

コンサート後は、30 分ほど離れた女川へ。狭い入り江に巨大な津波の押し寄せた女川は、壊滅的な被害を受けた地域で、タクシーの運転手さんが「ここから道はありませんでした」と説明を受けながら、女川野球場仮設住宅集会所へ。

受け入れをコーディネートしていただいた木村裕さんは市民オーケストラのフルーティスト、自宅も病院も流されました。高台にある病院で診療されています。この病院の１階まで津波がおしよせ、駐車場の車や「ここまでは来ないだろう」と思っていた多くの人が犠牲になった、というお話を聞きました。

この仮設住宅は新しく、建築家のグループがデザインしたという３階建のおしゃれな建物でした。外見同様内部も合理的なつくり付けの家具が配置されているということで、住民のみなさんも心なしかゆったりとして雰囲気でした。メンバーは途中参加の方も配慮に入れて、しっかり１時間半のプログラムをお聞かせしました。

５日は石巻市総合福祉会館みなと荘で１時半より。みなと荘は、地域の公民館のような施設で、北上川の沿岸にあり、１階まで水に浸かった建物です。管理者の蟻坂さんは音楽に深い理解のある方で、現在日本オーケストラ連盟がすすめている、被災地で統廃合される小・中学校の校歌をプロのオーケストラの演奏で CD にしてプレゼントしよう、という運動の呼びかけ人です。会場には続々と地域の方が集まり、１００人くらいの人で一杯になりました。

石巻は宮城県で第２の都市。海産物関連の「復興」事業は急ピッチで進められているようですが、地元の商店や住民の生活の再建という課題は、まだ取り残されているという印象を受けました。空き地と更地が広々としていました。

＜統廃合される学校の校歌 CD 化に協力します＞

前記の被災地で統廃合される学校の校歌 CD 化について、日本フィルは３月 19 日のオーケストラリハーサルの際、女川第４小学校の校歌を録音協力することにしました。このプロジェクトには、国内 32 のオーケストラが加盟しているオーケストラ連盟、編曲は日本作曲家協議会、楽譜制作はハッスルコピーが担当するなど、多くの音楽関係者が関わっています。

この活動は、三菱ＵＦＪニコス株式会社が、日本フィル「被災地に音楽を」の活動を Partner Special として支援してくださいました。

＜本号記載の訪問先＞

３月３日石巻市役所
３月４日同市「こ～ぷのお家 いしのまき」
同市女川野球場仮設住宅
３月５日同市みなと荘

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜ 第18号 ＞

2013年4月

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

＊　日本フィルの「被災地に音楽を」の活動は、100回を超えました！

＜クラリネットのトリオで南三陸に行きました＞

３月21日、22日、宮城県南三陸に行きました。今回はクラリネット首席奏者の伊藤寛隆を中心とする中里真也(賛助)、竹内未緒(賛助)のクラリネットの３人が参加しました。今回は、昨年１月から志津川地域の「たまり場」として立ち上げた「さんさカフェ」を運営し、厨房を担当してきた内田兄弟のお母さんの絹子さん(73歳)がコーディネートしてくださいました。

21 日は志津川中学校でクラリネット三重奏のコンサート。モーツァルト：ディベルティメント、「フィガロの結婚」によるディベルティメント、フンメル：三重奏曲ほか、日本の歌曲の数曲。クラリネット３本という同族楽器のアンサンブルの、よどみのない心地よい響きを堪能しました。志津川中学と志津川高校の吹奏楽部の生徒たちが勢ぞろいし、学校校庭にある仮設住宅からも参加されました。両校とも日本フィルメンバーにとっては数回訪問しており、お馴染みの学校で、顧問の先生も美しいサウンドに感動していました。コンサート終了後はクラリネットの生徒を対象に約30分のクリニックを行いました。

翌22日。午前中、メンバーは被災の現場を見て回りました。案内のタクシーの運転手さんは「志津川病院に入院中の義母はベッドごと流され、まだ遺体があがっていない」とさらりと説明、一同、言葉を失いました。瓦礫もなくなり、更地となった場所にあった人々の生活を想像しながら、その人々の住む登米市の南方仮設住宅へ。伊藤さんの穏やかでわかりやすい解説で、モーツァルトの曲や早春賦や浜辺の歌が奏でられ、たくさんの人たちがニコニコしながら演奏を楽しみました。大袈裟な同情や嘆きより、はるかに人の気持ちを和ませる、音楽と音楽家の偉大さを感じさせる一日でした。

＜7名の講師で、南相馬の４つの中学校へ、吹奏楽指導と合同演奏に行きました＞

昨年に続き、４月３日～6日まで福島県南相馬市の４つの中学校（原町第二中学校、鹿島中学校、石神中学校、原町第一中学校）に吹奏楽部の演奏指導と合同演奏を行ってきました。南相馬市は日本フィルが本拠を置く杉並区と「災害時相互援助協定」を結んでおり、教育委員会と学校と連携して行いました。今回も、三菱東京ＵＦＪ銀行の協賛をいただき、ボランティアのみなさんが校庭に花壇を再生させる作業を行いました。今年は、フルート/藤田真頼(賛助)、クラリネット/平塚美保、トランペット/星野究、ホルン/伊藤恒男、トロンボーン/岸良開城、ユーホニウム/黒沢ひろみ(賛助)、打楽器/遠藤功の７人の講師が赴きました。

原町第二中（４月３日）

被災後２年を経過した南相馬は、除染と原発にかかわる作業員が増え、ホテルや道路も混んでいました。一見「復興」に向けて活気があるような印象を受けますが、大きな袋に詰められた除染した土があちこちの集落の一部分に集められ、放射能汚染の本格的な「消去」にはどれほどの歳月がかかるのか、想像を絶する困難さを感じます。帰還する人も増え、人口は増加しているとのことでしたが、子どもの帰還は少ないとのことでした。吹奏楽の部員も、原二中 18 名、鹿島中１３名、石神中１３名、原一中３４名で、震災前の半分から３分の１のままでした。

鹿島中（４月４日）

午前と午後の３時間は楽器指導。７人の講師が１対１で対応する場面も多く、ぜいたくで楽しい時が流れました。生徒たちの演奏は、的確なアドヴァイスでどんどん変わっていきます。

石神中（４月５日）

最後はメンバーも加わっての合同演奏。となりに講師が座り、緊張した面持ちの生徒たちの表情は輝きに満ちていました。今回始めて参加するユーホニウムの黒沢さんが、複雑な構造の楽器のお手入れを入念に指導、生徒はプロフェッショナルから教わることは、演奏技術だけではないことを学びました。

原町第一中（４月６日）

南相馬の３日目の石神中学は、13 人の部員のうち男子が４名。プロの指導を受けるのは始めてとのことで、生徒も先生も緊張していました。合同演奏の指揮は、トロンボーンの受講生のいなかった岸良さん。強弱の付け方、拍の読み方、スタッカートのとり方などの指示で、一気にメリハリのある演奏に変化しました。子供の対応力はすばらしいです。

三菱東京 UFJ 銀行のボランティアの皆さんは花壇の整備。去年のプランターに植えた花たちも元気に咲いていました

日本フィルの「被災地に音楽を送る」運動は、この南相馬訪問で 100 回を超えました。現地に行けばいくほど、音楽が人々を勇気づける力を持っていることを感じます。日本フィルは、音楽家として、芸術文化にかかわるものとして、まだ終わっていない「震災」の悲劇と、まだ続く「不安」について、想像力の限りを尽くして寄り添っていきます。

クラリネット平塚美保さんの愛車のクラブのみなさんが、車の発売 1 周年の 6 日、素敵なメッセージをおくってくれました。

この活動は三菱 UFJ ニコス株式会社が、日本フィルの「被災地に音楽を」の活動を PartnerSpecial として支援してくださいました。

＜本号記載の訪問先＞
３月 21 日南三陸町志津川中学校
　　22 日　同町南方仮設住宅集会所
４月　３日南相馬市原町第二中学校
　　４日　同市鹿島中学校
　　５日　同市石神中学校
　　６日　同市原町第一中学校

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＊今回の訪問で被災地支援の演奏は、2011年4月から通算108回となりました。

＜ 第19号 ＞

2013年６月

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団　〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1　TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【遅い春が残る新緑の岩手県北部の沿岸地域に、「被災地に音楽を」届けてきました。5月27日～29日の３日間、田野畑村、普代村、野田村へ】

田野畑村、普代村、野田村はＮＨＫ朝の連続ドラマ「あまちゃん」の舞台となっている北三陸地域、久慈市から南下した太平洋に面した村々です。リアス式海岸の続く沿岸は断崖絶壁がつづき、激しい景観を見せています。海岸べりのわずかな平地は漁師の町で、ここが津波で大きな被害を受けました。今回の弦楽四重奏のメンバーはＯＢを中心とするヴァイオリン三好明子、新井布実（賛助）、ヴィオラ山下進三、チェロ大石修の４人です。

【砂地に水がしみこむように…子どもたちの身体に音楽がしみていきます】

初日は盛岡から車で２時間半の下閉伊郡田野畑村へ。午後３時から田野畑中学校のホールでコンサートです。小学生４年生から中学３年生の約200人の子どもたちが弦楽四重奏を初体験しました。演奏曲目はモーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジーク「第１楽章」、モーツァルト：「狩」、子どもたちが大好きなジブリの曲「天空の国ラピュタ」より『君をのせて』や「千と千尋の神隠し」より『いつも何度でも』など。砂地に水がしみ込むような…とはこんな感じ。真剣に身体全部を耳にしていました。校庭には仮設住宅がびっしりと並んでいました。

夕方は町役場や保育園や図書館が隣接するアズヴィーホールへ。ここにも仮設住宅があり、６０世帯が暮らしていました。田野畑村の仮設住宅は木造で天井が高く、他地域のプレハブと比べると、暖かい感じがします。コンサート会場にしつらえたエントランスはコンクリート打ちっ放しでよく響き、教会の中のような雰囲気でした。仮設住宅からはあかちゃんづれのお母さんや子どももいっぱい集まりました。昼間学校で聴いた中学生が最前列に来ています。「もう１回聴きたかった、泣けるほど感動した」と言ってくれました。

【この日のために用意した「北上夜曲」】

岩手沿岸２日目は普代村。ここは先代の村長の英断で作った東北一の「防潮堤と水門」が村を救い、亡くなった人が一人という「普代村の奇跡」といわれている地域です。高さ１５．５メートル、全長１３０メートルの「防潮堤」、村の北側には、同じ高さの水門（全長２００メートル）があり、こちらも川を勢いよく上ってきた津波をほぼはね返し、小学校を守ったといいます。

朝は特養老人ホームのうねとり荘へ。約８０人の方が心待ちにしていてくれました。ほぼ全員の方が車いすで職員や家族の方も一緒に聴いていただきました。天井の高いホールに、この日のために用意した「北上夜曲」が流れました。

午後は普代中学校。お昼に学校給食をいただきました。メニューは地元の野菜と海産物のあえものと魚のフライでした。中学生全員と隣の小学校からは 4 年生以上が参加。普代小を卒業している中学生も、一緒になって小学校の校歌を歌いました。

【「遠くて不便」支援の届いていない地域にこそ音楽を】

３日目は九戸郡野田村。ここは平地が広がる集落だったため、高さ 12 メートルの防潮堤が壊れ、海が押し寄せ、大きな津波被害を受けました。「隣の久慈市に比べ、目立たず地味に扱われた野田村」とは関係者の弁。交通機関も絶たれ陸路にたよっていたため、復興が遅れているという印象を受けました。教育委員会のみなさんも控え目です。

野田小学校４年生以上 100 人が授業の一環として鑑賞しました。子どもたちの 1/5 が仮設住宅から通っていると聞きました。かなり高い率だと思います。最初の曲、アイネ・クライネ・ナハトムジーク「第１楽章」の後、ドッとどよめきが起きました。はじめて生の演奏を聴いた時の反応が確かに伝わり、演奏にも熱がこもります。緊張気味の校長先生も、最後は曲にあわせてハミングしていました。「いじめも体罰もないいい学校だけど、表面明るくしている子どもたちの心に抱えるストレスが心配」と先生方が語っていました。

遠くて不便で、支援活動が届いていない地域にもっと行きたい。純真な子ども達の元にもっと音楽を届けたいと思いました。

今回の派遣活動は日本ユネスコ協会連盟がコーディネートを行い、三菱ＵＦＪニコス株式会社が、日本フィルの「被災地に音楽を」の活動を Partner Special として支援してくださいました。

〈本号記載の訪問先〉

５月 27 日　岩手県下閉伊郡田野畑村　田野畑中学校
同郡 田野畑アズヴィーホール
28 日　同郡 普代村うねとり荘
同郡 普代中学校
29 日　九戸郡野田村　野田小学校

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート
＊今回の訪問で被災地支援の演奏は、2011年4月から通算113回となりました。
＜ 第20号 ＞
2013年7月

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団　〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1　TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

＜梅雨模様の中、岩手県大船渡市の仮設住宅・学校等４ヶ所を訪問しました＞

６月 16 日～18 日、日本フィルの弦楽四重奏が岩手県大船渡市を訪問しました。メンバーは1st ヴァイオリン遠藤直子、2nd ヴァイオリン坪井きらら、ヴィオラ新井豊治、チェロ中務幸彦の 4 名です。大船渡市は陸前高田市や気仙沼市とともに三陸海岸南部の代表的な都市。2011 年３月 11 日の東日本大震災では市域に大津波が襲来し、各所に甚大な被害が生じました。港湾空港技術研究所の調査によれば、津波の最大波高（浸水高）は大船渡港茶屋前地区の商工会議所ビルで 9.5m に達したといわれています。

また“カモメの卵”で全国に知られている地元銘菓、斉藤製菓本社も本社の三階まで被害を受けました。しかし高台にあった工場は津波の被害を免れ、出荷間近であったおよそ 25 万個のカモメの卵を食糧不足の被災者へいち早く届けられたことが、全国ＴＶにて先日も改めて放映されました。大船渡市の人的被害は死者 320 人・行方不明者 140 人、建物被害は住家全半壊 3,629 棟、一部損壊床上浸水件数は調査中、床下浸水多数に上ります。

16 日は大船渡宮田応急仮設住宅の皆様へ演奏をお届けしました（**写真右上**）。プログラムは“川の流れのように”“荒城の月”“上を向いて歩こう”そして“タンゴメドレー”“花が咲く”などです。

震災から２年３ヶ月が過ぎ、仮設での生活も限界近くに。近隣同士の生活音によるストレスなど。まだまだ復興には程遠い状況。そのような中ではありながら、「音楽に浸る一時にて、一瞬でも忘れることが出来た」との感想を頂き、楽員一同安堵いたしました。

17 日午前には岩手県立気仙光陵支援学校へ。ディズニーの楽しい曲“イッツ・ア・スモールワールド”でスタート。楽器紹介や指揮者コーナーなども…。子どもたちは曲に合せて手拍子したり、体全体で音楽を楽しんでもらえました。「曲当てクイズ」では、主旋律が登場する1st ヴァイオリンよりもずっと早くに解答し、楽員が驚く場面もありました。最後は生徒の皆さんと一緒に大きな声で校歌を歌いました。

午後には上平応急仮設住宅へ。“荒城の月”など。まさに目の前で演奏する感じでした。観客数１０名にて、７０～８０歳代の女性が中心。終演後に１時間程度「お茶っこ（茶話会、懇談会）」の折、「これまでの人生でクラシック音楽とは縁遠かったけれど、今日こんな近くで聴けて、また親しみのある曲目にふれてとても心穏やかになった」と仰っていただきました。

最終日 18 日は越喜来（おきらい）小学校へ。一年生から六年生まで 110 名、児童の父兄８名、近隣の仮設住宅からも足を運んでいただきました。震災で校舎は全壊、３校が統合された学校です。震災当日、沿岸部にあった学校から裏山へ上る階段のおかげで、難を逃れることが出来た学校として、メディアにも取り上げられました。

子どもたちに人気の宮崎駿さんメドレー“崖の上のポニョ”など、リラックスした後は、指揮者コーナーです。5 年生、6 年生の一人づつが参加しまし、最後は大きな声で校歌を歌いました。

大船渡市への演奏派遣は、富国生命保険相互会社からご支援をいただきました。

＜カンタータ「大いなる故郷石巻」公演に友情出演
体育館を埋めた１５００人の石巻市民にエールをおくる＞

６月23日、東日本大震災復興祈念事業「カンタータ　大いなる故郷（ふるさと）石巻」が石巻市総合体育館で上演されました。管弦楽、合唱、舞踊が一体となり、総出演者約３８０人が「麗しき故郷、石巻をたたえよう」とうたいあげ、力強く再起する市民を後押しするように感動のステージをつくり上げ、約１５００人の観衆を魅了しました。

オーケストラは石巻市民交響楽団、日本フィルからは、弦楽器１１人、管楽器４人の15人が友情出演しました。

この曲は石巻出身の故小杉太一郎氏が作曲、石巻の自然や歴史をうたいあげたもので、師事した伊福部昭の影響が随所にあらわれ、原始的で力強い雰囲気に満ちています。１９７３年の初演以来１０年ごとに発表され、今回で５度目の再演です。前半も同じく故小杉太一郎さんの初演となる「交響楽」が演奏されました。

実行委員長の西條充敏さんは次のようにプログラムに開催の意図をのべています。

「いまから400年前(1613年)、石巻より１隻の大型帆船が船出しました。仙台藩主伊達政宗の命を受けた支倉常長ら慶長使節団が乗り込んでいました。我々が２年前、東日本大震災で甚大な被害を受けたのと同様に、出帆の２年前、慶長の大津波により多くの犠牲を強いられていました。しかし、先人たちはその後も襲いかかる大災難を乗り越え、今を創り伝えてきました。 まちを護ってくれるはずの海神のおたけびが、現代のわれわれに何かを警告しているのではないか。多くの犠牲を払いながら何度も繰り返し伝えようとしているのは何なのか。子供たちや、未来の人々が「故郷」を誇り、賛美できるような「愛すべき人の町」「愛される人の町」を伝えていくことではないだろうか。」

第４楽章の朗読の一部は、大震災発生に合わせて変更。「再び力強く立ち上がる市民１０余万。今ここに高らかに未来への願いを込めて歌う」と苦難にも負けず前に進むことを誓いました。フィナーレでは全出演者が勢ぞろいし、圧巻のステージとなりました。会場は総立ち、涙ぐむ人、歓声を上げる人など、大きな感動に包まれました。

日本フィルの石巻への訪問は今回で５回目、今年３月には石巻市民交響楽団とこの日のコンサートの支援のために弦楽四重奏で市内４ケ所を訪問しました。団長の足立岳志さんは、「震災で石巻は大きく変貌していますが、石巻を愛し、たたえるこの楽曲は40年変わっておりません。疲弊してしまった石巻と我々にとって、今ほど演奏するのにふさわしい時期はないでしょう。当団でも被災し、まだ戻って来られない団員もおります。今日は故郷石巻の復興にむけて、一緒に演奏できない仲間の思いを背負って演奏します。」と語っていました。

石巻の津波被害は宮城県最大規模で、死者・行方不明者は3837人（2012年２月）にのぼりました。旧北上川河口周辺や海岸に近い地域は海地盤沈下が激しく、道路もかさ上げされていました。「居住不適指定」地域には取り壊しを待つ建物も多く、町の中心にはまだ「復興」には程遠い状況です。

市民交響楽団や市民合唱団や舞踊団のメンバーは、10年ごとに再演される「カンタータ　大いなる故郷石巻」に参加している古くからのメンバーが多く、この曲を石巻の宝物と語っていました。病院も家も楽器も流されてしまい仮設住宅で暮らしている女川のお医者さん（オーケストラメンバー）、水に浸かった商店で製造機器が壊れ商売の再開をあきらめた合唱団員、大事な弟子や孫弟子を失い着物や帯や扇子などすべてを流されながらも、全国から集まった着物や浴衣などの支援物資に新たなエネルギーをもらい、取り組んできた踊りのお師匠さんなど、出演者380人のそれぞれの「震災後」の気持ちがひとつになった、記念すべきコンサートとなりました。

このカンタータ「大いなる故郷石巻」公演は三菱UFJニコス株式会社が協賛し、日本フィルメンバーのほか社内ボランティアのみなさんを派遣しました。

〈本号記載の訪問地〉　６月16日岩手県大船渡市宮田応急仮設住宅
17日　同市気仙光陵支援学校
同市上平応急仮設住宅
18日　同市御喜来小学校
23日宮城県石巻市総合体育館

東日本大震災と日本フィルハーモニー交響楽団

日本フィル「被災地に音楽を」活動の記録

2011年4月～2012年3月まで

～「音楽家に何ができるか」を問いながら～

《 付録 》
「 募金呼びかけチラシ」

この度の東日本大震災で、犠牲になられた方々の
ご冥福を深くお祈りするとともに、
被災地で不自由な避難生活を余儀なくされている多くの方々に
心からお見舞いを申し上げます。

「被災地に音楽を」
励ましあって生きていこう!

日本フィルメンバーを被災地に送ってください。
みなさまの心を音楽にかえて、日本フィルがお届けします。

2011年4月
(財)日本フィルハーモニー交響楽団

3月11日の東日本大震災では、一瞬にして故郷が失われ、数え切れない尊い人命が失われました。私たちはこの未曾有の災害の前に未だに言葉を発することさえできません。

今、復興の兆しもまだ見えず、また日々刻々と状況が変化する中で、日本フィルは私たちに何ができるかを考えてきました。

日本フィルは1995年に発生した阪神・淡路大震災のときも、多くのみなさまのご支援をいただいて阪神地区に居住する音楽家とともに「現地に行って、音楽で励ます」支援活動を行ってきました。被災地での音楽活動はお互いを励ますものとして私たちの心に強く残っています。音楽は、愛する人や街を失った悲しみをなぐさめ、励まし、生きる勇気を与え、そして人と人のきずなの美しさや強さを無言のうちにうたい上げます。

そして、今回の大震災では私たちの友人、仙台フィルハーモニー交響楽団も大きな被害を受けました。また被害は楽団のみならず、仙台フィルを支えてこられた多くの音楽ファンや市民をも巻き込み、同団は現在、拠点とする仙台、宮城、東北地方に活動の場を失っています。

私たち日本フィルは再び、被災地で、途方にくれながらも懸命に立ち上がろうとしている人々と、それを支える多くの人々とともに、音楽活動を開始しようと思います。人が人を思うこと、そのお互いが引き合う力に、多くの人々が生きる希望を見出すことができるのではないかと考えたからです。みなさまの心を音楽に変えて、日本フィルがお届けします。

日本フィルは東北で音楽の灯をかかげる仙台フィルとともに、日本フィルメンバーを被災地に派遣する運動をはじめます。少なくとも2012年3月11日までは継続して行おうと考えております。

上記の趣旨をお汲み取りいただき、どうかみなさまのお力で、日本フィルメンバーを被災地に送り出してください。

1995年の阪神・淡路大震災で、日本フィルは1年かけて23会場、のべ63名のメンバーを被災地に送りました。はじめは避難所となった学校へ、その後は病院のロビーやお寺、仮設住宅の集会所など。現地では、国境なき医師団、医療団体、生協、アートで復興をすすめる団体、街づくり協議会、神戸弁護士会など、さまざまな団体が「音楽を送る」運動のコーディネートを行いました。

＜運動の趣旨＞

■日本フィルメンバーが、被災地へ直接音楽を届けます。
　メンバーはボランティアで参加します。
■この活動は仙台フィルがすすめる「音楽の力による復興センター」と協力してすすめます。
■この活動は被災1年後の2012年3月11日まで実施します。

＜お願い＞

■メンバーを派遣するための交通費、宿泊費など必要経費のための募金にご協力ください。
■演奏できる会場、場所についての情報を提供してください。
■コーディネートをしてくださる団体、個人を募集します。

＜お振込先＞

■郵便振替　00160－6－789789（口座は4月20日以降使用できます）
　加入者名　日本フィル「被災地に音楽を」
■銀行振込　三菱東京UFJ銀行　高円寺支店
　口座番号　普通　0065261
　口座名　日本フィル被災地に音楽を

当団は「特定公益増進法人」の許可を受けております。個人による寄付の場合も「特定寄付」として所得額から一定の算式によって控除できます。（所得税法施行令217条1項第2条また第3号による）。詳しくは当団経理部（TEL.03-5378-6311 ）へお問い合わせください。尚、銀行振込で申告にかかわる必要書類を希望される場合は、お振込後、日本フィル宛ご連絡をお願いいたします。

＜事務局・連絡先＞　日本フィルハーモニー交響楽団　（担当：音楽の森　富樫、高橋）
〒166－0011東京都杉並区梅里1－6－1　Tel03（5378）6311　Fax03（5378）6161
http://www.japanphil.or.jp/　E-mail: togashi@japanphil.or.jp　takahashi@japanphil.or.jp

福島県「浪江町」のみなさんの避難所を訪問しました。

日本フィルのメンバーは2011年4月6日、福島第1原発から10キロの太平洋に接する町、福島県浪江町の方々が避難されている二本松市の東和地区の避難所を訪問しました。訪問のきっかけとなったのは、香港から支援物資としてお預かりした乾電池です。国会議員の合唱団をまとめる愛好家を通じて、乾電池とともに楽器を持った楽員が、日帰りの強行軍でお届けしたのです。

福島県浪江町は、町の人口はおよそ20,000人、うち17,500人は福島第1原発から半径10キロ圏内に住んでいらっしゃいました。

町の中心地で役場にも近い請戸地域は津波で壊滅し、現在でも約200人の安否が確認されていません。臨時町長室の壁に貼られた線囲みの地域（左写真）は、地震翌日の1号機水素爆発で放射能汚染のため立ち入り禁止区域に指定され、自衛隊も近づくことができず、あの日以来そのままの状態とのこと。とてもこの世のこととは思えない馬場有町長のお話しに、私たちは言葉を失いました。

町民の方々は原発20キロ圏外にある所にいったん避難され、15日にはさらに35キロ地点へと再移動することとなりました。移動のバスの手配もままならい中、慌ただしく町を離れ、立ち入ることもできない故郷。現在この地区の14の施設に避難されている約1,500名の方が、いつまで続くかわからない避難生活を余儀なくされています。

もし演奏させていただけるなら、との希望を受け入れていただき、臨時役場の脇にある避難所のひとつ「東和文化センター」玄関の前で、急遽30分ほど演奏しました。ヴァイオリンの松本克巳、ヴィオラの後藤悠仁、トロンボーン伊波睦の3名が、「タイスの瞑想曲」「すべての山に登れ（サウンド・オブ・ミュージックより）」「赤いサラファン」など10曲を演奏。避難所にいらっしゃった方が、ウォーミングアップの音を聞いて集まってこられ、およそ50名のみなさんがしばし音楽を聴いてくださいました。最後の「ふるさと」の合唱では、こらえきれずに涙をぬぐう方もおられました。東和地区は山に囲まれた窪地です。山々が天然の反響版となり、静かな地区全体にまるでホールのように楽器の音が静かに響きました。

4月11日に、新たに全域が「計画的避難区域」に指定された浪江町。やり場のない不安と恐怖のなか、浪江町のみなさんは今どうしておられるのでしょうか。私たちは町役場と連絡を取り合い、今後も継続して演奏を届けようと考えています。

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第１号＞

2011 年５月 17 日

発行：(財)日本フィルハーモニー交響楽団　〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL03-5378-6311 FAX03-5378-6161

【5/4　福島県会津若松市で弦楽四重奏】

2011 年５月４日、福島第１原発 1～4 号機が立地する福島県双葉郡大熊町の方々が避難されている会津若松市を訪れました。大熊町は過去に町の教育委員会主催で 2004 年と翌 05 年に室内楽で演奏を行いました。当時、地元でコーディネートしていただいた方から、「大熊町の方々と、会津若松市の皆さんが一緒になって音楽を楽しむ機会を持ちたい」とお声をかけていただき、会津若松市文化センターにて弦楽四重奏でのコンサート開催となりました。大熊町の皆さんは、全人口 11,400 人の内、3,600 人がこの会津若松市内に移りました。避難先は東山温泉を中心に、喜多方や裏磐梯など計 63 施設にも分かれています。ホールのロビーには、市内の方を中心に５５名の方にお集まりいただきました。日本フィルメンバーはヴァイオリンの本田純一・豊田早織、ヴィオラの高橋智史、チェロの山田智樹。進行役は福島県三春町出身、チェロの山田が務め、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」「ジュピター」といったクラシックの他、「会津磐梯山」「見上げてごらん夜の星を」「上を向いて歩こう」「ふるさと」など 12 曲を演奏。小さい声で口ずさんだり、うつむきながら目頭を熱くさせて聴いてくださる方もいらっしゃいました。被災された方々の心のケアに留まらず、受け入れる地元の皆さんとの新たなコミュニケーションを深める一助に、日本フィルはこれからも、継続して演奏を届けたいと思っています。

【5/6　埼玉県加須市立騎西小学校で弦楽四重奏】

５月６日騎西小学校を訪問しました。福島第一原発の 5･6 号機の立地する双葉町（総人口約 6800 人）から約 1200 人の皆さんが、廃校予定だった埼玉県加須市の旧騎西高校に避難されています。これに伴い、旧騎西高校に近接する騎西小学校には、双葉町立の南小学校と北小学校に通っていた児童のうち 99 人が編入しました。日本フィルは、さいたま市内の大宮ソニックシティホールで「さいたま定期演奏会」を行っており、共同主催の「財団法人埼玉県産業文化センター」の仲立ちで加須市の教育委員会を通じ、今回の訪問が実現しました。出演はヴァイオリン山田千秋・豊田早織、ヴィオラ高橋智史、チェロ山田智樹の 4 人。進行役は福島県三春町出身、チェロの山田が務め、メンバー紹介で「僕も双葉町から少し離れた福島県三春町の出身です」と優しく話しかけると、「福島だから双葉のおともだちと同じだね」と、低学年のブロックから、かわいい声が聞こえてメンバーも思わず微笑みます。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」や、「となりのトトロ」の《さんぽ》や「アンパンマン」のテーマといったアニメソングに、低学年の子どもたちは大喜び。みんなの元気な歌声で児童 455 人の体育館がいっぱいになりました。全員が立って騎西小学校の校歌を、弦楽四重奏の伴奏で大きな声で歌いました。そして「ラデツキー行進曲」では子どもも大人も全員が一つになって元気な手拍子、そして心のこもった盛大な拍手を頂きました。「子どもたちの笑顔が、周りの大人も元気にするのですね」先生の感想に、音楽の持つ力を実感できたミニコンサートでした。

【5/12　埼玉県加須市立騎西中学校で金管五重奏】

騎西小学校での弦楽四重奏に引き続き、５月 12 日加須市立騎西中学校で、金管五重奏による慰問コンサートを行いました。騎西中学校には、福島県双葉町から 63 人の生徒が編入しています。

637 人の生徒で体育館はいっぱいです。出演はトランペット星野究・只野佑季(賛助)、ホルン原川翔太郎(賛助)、トロンボーン藤原功次郎、チューバ柳生和大。星野は「日々、大変な中だとは思いますが、今日は生の音楽をリラックスして聴いてください」と、優しく語りかけました。「サウンド・オブ・ミュージック」やアニメ「天空の城ラピュタ」メドレーが、藤原の自身の体験を交えた曲目紹介とともに演奏されました。時折のユーモアで生徒さんから思わず笑いがこぼれる中、「僕も小学校４年生の時に阪神大震災に遭って、１ヶ月ほど避難所で生活しました。小さい頃、阪神大震災まではピアノと作曲を習っていましたが、避難所で何度かブラスバンドの慰問演奏を聴いて、その音色が好きになって中学からトロンボーンを始めました」というトークが、生徒さんと保護者の方の心に届きました。「アンコールは、AKB48 の《会いたかった》です！」藤原の声に、女生徒さんから「ワァーッ！」「キャーッ！」と、とっても素直な歓声が上がりました。いっきに体育館がヒートアップし、名残を惜しむように終演となりました。

＊5 月 14 日現在の募金総額　3,715,572 円（会場募金　2,182,272 円、郵便振替・銀行振込等　1,533,300 円）

【5/8～10　宮城県名取市、気仙沼市、石巻市の全 11 ヶ所で「愛とヒューマンのコンサート」】

５月８日から 10 日の３日間、ヴァイオリンの松本克巳がソロで宮城県の名取市、気仙沼市、石巻市を訪問しました。（ピアノ＝相馬泉美、尺八＝林真山８日のみ）阪神淡路大震災や中越地震など被災地での演奏活動を続けてきた「愛とヒューマンのコンサート委員会」（埼玉県）が中心となり主催、安全な住まいと街づくりをすすめるネットワークや宮城県高等学校教職員組合が現地のコーディネートを行いました。

名取市閖上(ゆりあげ)地区では、たくさんの人が亡くなった浜を見下ろす高台で鎮魂の野外コンサートが行われました（朝日新聞記事）。２ヶ月にわたる避難所生活を強いられている被災者の方々には、ハーライン「星に願いを」、マスネ「タイスの瞑想曲」、シューベルト「アヴェ・マリア」貴志康一「竹取物語」「水夫のうた」など、約 40 分の演奏をプレゼントしました。正座して聞く人、横たわりながらも目を閉じじっと聞き入る人、赤ちゃんと一緒のお母さん、学校から帰った子どもたち、避難所をサポートするボランティアの人々、炊き出しをする自衛隊の若い隊員など、たくさんの人たちとの出会いがありました。みんなが“つながって、生きている”ことを実感する時間が流れました。

2011年(平成23年)5月9日　月曜日　朝刊

鎮魂の調べ　被災地に

坂本弁護士友人ら企画

1989年にオウム真理教幹部に殺害された弁護士の坂本堤さん夫婦の友人らが8日、宮城県名取市閖上で、震災で亡くなった人たちのため、鎮魂の野外コンサートを開いた。

中心となったのは、坂本弁護士の救援活動を続けた日本フィルハーモニー交響楽団のバイオリニスト松本克巳さん(56)。「音に尿くすという坂本弁護士の思いを引き継ごう」と、「愛とヒューマンのコンサート」と名付けて阪神大震災や新潟県中越地震の被災地でも開催してきた。

譜面した街に残る高さ8メートルほどの通称「日和山」から、この日のために編曲された宮城県の民謡「斎太郎節」などのもの悲しい調べが、がれきの野に流れた。

強風が吹き荒れ、猛烈な砂ぼこりが舞うなかで聴き入っていた同市内の主婦(40)は「大震災を乗り越えた証や友人を思い出した」と涙ぐんでいた。（伊藤智章）

野外コンサートでバイオリンを演奏する松本克巳さん（中央）＝11日午後、宮城県名取市閖上、小阪敏撮影

＜本号掲載の訪問先＞
５月４日福島県会津若松市文化センター
５月６日埼玉県加須市騎西小学校
５月８日名取市増田西小学校避難所
閖上地区日和山
同市文化会館避難所
５月９日気仙沼市階上中学校避難所
松岩公民館避難所
面瀬中学校避難所
５月１０日　石巻市石巻高校避難所
湊小学校避難所
門脇中学校避難所
石巻中学校避難所
北上子育てセンター避難所
５月 12 日埼玉県加須市騎西中学校

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第２号＞

2011 年６月 11 日

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【福島県三春町の３箇所で弦楽四重奏】

＜かやぶき屋根と囲炉裏のある食堂にて＞

2011 年６月５日から６日にかけて、福島第二原発のある富岡町と、近接の葛尾村の方々が避難している、三春町を訪問しました。初日(５日)は、三春ダムに程近い総合観光施設「三春の里　田園生活館」の中で、大きなかやぶき屋根と土間の囲炉裏が心和ませる会場での演奏です。ここの施設には富岡町から 118 人の方々が避難しており、日本フィルを個人で支援していただいている方から紹介された「ＮＰＯあぶくまＮＳネット」の仲立ちで実現しました。メンバーはヴァイオリン山田千秋・辻野順子、ヴィオラ高橋智史、チェロ山田智樹。避難されている方をサポートする地元スタッフを含め、30 人程の方にお集まりいただき、「会津磐梯山」を含む日本民謡、サウンド・オブ・ミュージック、「見上げてごらん夜の星を」など、子ども向けには「アンパンマン」のテーマが特に好評でした。高校時代までをこの三春町で過ごしたチェロの山田は、特別な感慨を胸に秘めての演奏で、「楽器を演奏することは世の中のため、人のためになれる、ということを震災後は実感しています」と話していました。

＜三春町営体育館の玄関ロビーにて＞

翌日(６日)は、富岡町の方々が避難生活している三春町営体育館を訪れました。演奏は体育館の玄関ロビーで、朝 10 時ということもあり当初はまばらでしたが、「五木の子守歌」など弦楽器のやさしい音色に誘われるようにお集まりいただき、最終的には 20 人程に聴いていただきました。ここでは「ふるさと」の演奏に感極まり涙する方々もおられ、チェロの山田が地元出身と聞き親近感を持たれ地元の話題で話しかけていただき、演奏のお礼にお茶でのおもてなしを受けて、こちらの方こそ恐縮してしまいました。

＜町立三春小学校体育館にて＞

６日の午後は、富岡町と葛尾村の子どもたちが編入している、町立三春小学校体育館での演奏です。全校児童約 400 人のこの小学校には富岡第１小学校から ８ 人、富岡第２小学校から６人、葛尾村の小学校から１人の児童が編入しており、三春小含め計４校の校歌をそれぞれ演奏しました。特に三春小には弦楽合奏と合唱のクラブがあり、ヴァイオリンなどの弦楽器を持った小さな音楽家たちと合唱団が、日本フィルメンバーを囲み、元気いっぱいに演奏し歌ってくれました。「ビリーブ」や「さんぽ」も大合唱で大盛上がり、「アンコールッ！」の大コールで、１曲では足らず急遽「見上げてごらん夜の星を」を演奏すると、今度は同席していた保護者の方々が大声で参加してくださいました。「避難してきて、久しぶりに校歌を歌った。友達を思いだし、懐かしくもあり、寂しい気持ちもした。」編入した児童が感想を述べてくれました。チェロ山田も、「子どもや地域の皆さんの目を見て演奏し、楽しんで頂いているのが伝わってきた。ふるさと三春にて、少しでも元気をお届けできればという気持ちで演奏した。」と語りました。余儀なくされた転校と避難生活という劇的な環境の変化は、子どもたちの小さな心にも大きな負担となっています。私たちは、子どもたちが明日への希望を持ち続けられるよう、今後も学校への訪問を継続したいと考えています。

【岩手県花巻市・釜石市・大船渡市でヴァイオリンとチェロの二重奏】

＜山の神温泉・幸迎館にて＞

2011 年６月４日と５日に、日本フィルの室内楽メンバーは震災後初めて岩手県に入りました。訪れたのは花巻市、釜石市、大船渡市の避難所です。日本フィルのメンバーはヴァイオリン三好明子とチェロ大石修というベテラン二人。東北新幹線で新花巻駅を経由し、ローカル単線の釜石線で花巻駅へ到着し、そこから演奏会場である「山の神温泉・幸迎館」へと向かいました。幸迎館には釜石市、大槌町で被災された方々が60 名ほど避難しており、同館の職員の皆さんが事前に演奏会案内の掲示、ビラ配り、当日は急遽の横断幕を作成、館内放送をしていただくなど事前準備を丁寧にしていただきました。入念なリハーサルの後、時刻は 20 時となりいよいよ開演です。レハールの「メリー・ウィドウ」ワルツでスタート。年齢を重ねた二人ならではの豊潤な響きが、被災されたご年輩の方々の琴線に響いた様子でした。その後「タイスの瞑想曲」、サン・サーンスの「白鳥」とそれぞれがソロ曲を演奏、お客様たちは親しみやすい曲の数々にそれぞれの思いを胸に楽しんでいるようでした。浅黒く日焼けした男性は避難前の土地柄からおそらく漁師の方でしょう。前方に陣取り演奏を聴きながら何度も頷き、緩む涙腺に目頭をおさえている姿が印象的でした。演奏会もクライマックス。最後にデュオで日本の唱歌の演奏です。最終的には立ち見の方もあわせて50～60 人くらいの人数となっていました。“みんなでうたおう”と題して“浜辺の歌”、岩手県にゆかりのある“北上夜曲”、そして定番である“ふるさと”を合唱。特に“北上夜曲”は皆さんご存知の様子で一番声が出ていました。アンコールはモンティのチャール・ダッシュ。そして終演後は三好も大石も被災された方と時間の許す限り懇談しました。

＜釜石市立甲子中学校にて＞

翌日５日は早朝８：30 に幸迎館を後に釜石に向かいました。午後１時より釜石市の甲子中学校体育館にて演奏です。この中学校の校庭は自衛隊の移住基地となっており迷彩色の車やテントなどで埋め尽くされていました。仮設住宅やアパート等への入居に伴う移転で、体育館に暮らしている被災者の方は現在 50 人弱ということです。釜石市では避難所での生活者の人数が徐々に減っているということと、日曜の昼ということで慰問イベントが多数行われていたようで、体育館の中には 12 人ほどしかいらっしゃいませんでした。そのため BGM のような感じで演奏をしようということになりました。「メリー・ウィドウ」に始まり「タイスの瞑想曲」や「愛のあいさつ」など次々と演奏しているうちに皆さん徐々に身体をおこして真剣に聴いていただけるようになりました。そしてそこにいる多くの方の頬を涙が流れました。最後に体育館から退場する際は、心のこもった大きな拍手をいただきました。

＜大船渡市「リアスホール」ロビーにて＞

釜石から車で約１時間 30 分移動し大船渡市に入ります。午後４時から大船渡は避難所のリアスホールロビーでの演奏です。急に演奏日程が決まったこともあり、避難所にて直接演奏会へ呼び込みを行ったり、告知の館内放送を何度もしていただきました。結果的には 30 人以上のお客様がいらっしゃいました。円熟し息もぴったりあった二人の演奏に大船渡でも多くの方から涙ながらに感謝の言葉をいただきました。ある方は「震災から今までずっと気を張り、緊張感を持って生きてきた。生演奏の音を聴いた瞬間、張りつめていたものが解き放たれ涙が止まらなくなった。」とのこと。その方は延々と三好さんにご自身の募る思いをお話されていました。今回避難所３か所で演奏を行い、三好、大石も被災された方々から直接の感謝、喜びの声を全身で受け止めました。「今日の演奏は一生忘れません」「無意識に張りつめていた緊張が解けた」「癒しをもらった」「また是非とも来てほしい」など多くの言葉をかけていただきました。

『家もなく途方もない絶望感や、先は長いが復興を目指して立ち上がろう。という思いが入り混じった感情』と『被災地や被災された方を思い救済、復興のために何かできることはないか』という日本フィルの思いを繋ぐのは、クラシック音楽の力だとあらためて感じる２日間でした。

＜本号掲載の訪問地＞
2011 年
６月４日岩手県花巻市山の神温泉「幸迎館」
６月５日岩手県釜石市甲子中学校避難所
　　岩手県大船渡市リアスホール避難所
　　福島県三春町田園生活館
６月６日福島県三春町営体育館
　　同町三春小学校

＊５月 31 日現在の募金総額　4,233,078 円（会場募金　2,300,105 円、郵便振替・銀行振込等　1,932,973 円）

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第３号＞

2011 年7月1日

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【福島県南相馬市の４箇所で弦楽四重奏】

6/25（土）～26（日）の２日間、福島第１原発のある大熊町、双葉町から真北に約 20～30 ㎞、全村避難の飯舘村葛尾村のすぐ東側という位置にある南相馬市で、4 回の弦楽四重奏を行ってきました。メンバーはヴァイオリン三好明子・遠藤直子、ヴィオラ菊田秋一、チェロ大石修の４人。南相馬市は、津波の直撃を受けた《浜通り》に位置します。震災・津波で、750 人以上の方々が亡くなり（あるいは行方不明）ました。ほかに負傷者も多数出たそうです。また、現在、市の南側の一部区域は、原発被害による立ち入り禁止区域ともなっており、津波と原発と二重の被害を受けています。日本フィルは南相馬市とは、10 年以上前から、室内楽の演奏会に何度か呼んでいただき、そのたびに地域の方々と、様々な交流を行ってきました。

（鹿島保健センター）

今回の訪問は、市内にお住まいの、NPO 法人自然環境応援団の理事長上條大輔氏と、《陽だまりの会》の代表高倉紀子氏のご尽力、コーディネイトにより実現いたしました。演奏会の前後には、上條さんのご案内で津波の直撃を受けた海辺の地域やら、瓦礫の集積場などにも連れて行っていただきました。市内の海岸から３～４km 地域には、いまだにひしゃげた自動車や船底を上にした漁船が、あちらこちらに多数放置されたままになっています。そして、さらに原発事故による、放射能被害…。日本フィルのメンバーは、景色を見ながら、押し黙ったままとなり、市民の方々の悲しみの深さは、いかばかりかと想像することさえ難しいほどの状況でした。

（市立第二中学）

初日（６月 25 日）は、避難所になっている**【鹿島保健センター】**での演奏会でした。３０名くらいの方にお集まりいただきました。クラシックの名曲のほか、《浜辺のうた》や《ふるさと》は、集まった観客の皆さんと「原町女性合唱団」「ゆめはっと合唱団」の皆さんともご一緒に歌うことが出来ました。

（道の駅南相馬）

２日目（６月 26 日）は、避難所となっている**【市立第二中学校】**、**【道の駅南相馬】**、さらには同じく避難所として使われている**【市立第一小学校】**の順番で演奏会が開かれました。第二中学校では 65～70 名、道の駅では、50～55 名、第一小学校では、25 名～くらいの方々に演奏を聴いていただきました。特に第二中学校と第一小学校では、朗読ボランティアの会「千の会」の方々とも共演させていたくことが出来ました。実は、最後の演奏会が開かれた、第一小学校では、避難している方々が寝泊りなさっている生活空間である体育館での演奏会でした（ほかの会場は、生活の場での演奏ではなく、ロビーなど共有スペースでの演奏でした）。観客の数を 25 名～と書きましたが、2 畳くらいの段ボールで覆われた個人の生活スペースにぐるりと囲まれた空間の中での演奏です。演奏者の前におかれた椅子に腰掛けてお聴きになっている方だけでなく、生活スペースに寝転がったまま、お聴きになる方、また演奏が始まってもお休みになったままの方もおいででした。私たちの音楽が、今この体育館にいらした方たちにとって、いくらかでも心の安らぎになってくれていれば嬉しい、そうであって欲しい…。そういう思いを込めての静かな演奏会となりました。

（市立第一小学校）

【福島県二本松市、大玉村でオーボエ・クラリネット・ファゴットの三重奏】

6月25～26日、福島県二本松市と安達郡大玉村にて日本フィルの木管メンバーが初めて訪問コンサートを行いました。演奏は坪池泉美(オーボエ)・芳賀史徳(クラリネット)・田吉佑久子(ファゴット)の3名、いずれも 2009 年～2010 年に日本フィル入団のフレッシュなトリオです。今回の訪問に自ら進んでボランティア演奏に名乗り出た若手3人が、音楽家として、また一人の人間として、感じたままをレポートにし連名で寄せてくれました。

（JICA 二本松訓練所）

私たちは6月25日、26日と福島県二本松市と安達郡大玉村を訪問しました。1回目の演奏は JICA（独立行政法人国際協力機構）**二本松訓練所**で行いました。この施設は、浪江町、富岡町、飯舘村から避難された方およそ140名が滞在しているところです。被災された方々の前で演奏するのは初めてのこと、実際、最初はどんな気持ちで吹いたらよいのか分からず、本当に来てよかったのだろうか？という不安もありましたが、時間がたつにつれ、皆様、一緒に歌ってくださったり、終演後は声をかけてくださる方もいて、来てよかったと思うことができました。

その後、JICA を足早に去り、次はこちらも避難所となっている**「あだたら体育館」**へ向かいました。浪江町から避難された方が当初は200名以上、3か月を経た現在も 20 数名の方が滞在されています。テレビで目にしていたような、何もない体育館に畳を持ち込み、段ボールで仕切りを作っただけの空間に皆様住んでいらっしゃいました。

（あだたら体育館）

体育館に一歩足を踏み入れると、何とも言いがたい気持ちになりました。同じ日本という国に住んでいながら、こんなにも辛い状況に置かれて生活しなければいけなくなってしまった方々に、こちらからかける言葉が見つかりませんでした。しかし、体育館で被災者のお世話をしている浪江町役場の古川さんが、私達をやさしく迎えて下さり、2 回目の演奏をしました。近隣の旅館などに二次避難されている方々も雨の中来てくださり、楽しそうに聞いていただけ、私達は本当にうれしかったです。演奏後少しだけお話しをさせて頂く時間があったのですが、「ふるさと」を歌いながら浪江を思い出されてしまったようで「ふるさとに帰りたいのに、帰る家ももうない」と涙を流していらっしゃる方もいました。本当に何もかも失ってしまった方々に、私達は何ができるんだろう？と思わされましたが、皆さんが終演後に癒され、感動したと言ってくださることに私達も微力ながら少しだけ皆さんに元気を与えることができたのかなと思いました。

（フォレストパークあだたら）

翌日は、大玉村にある**「フォレストパークあだたら」**にて演奏させていただきました。この施設にも、富岡町他からおよそ80名の方々が避難されています。周りを山々に囲まれ、まさに森の中にいるような雰囲気の中での演奏でした。みなさん、一緒に声を出して歌って下さいました。

3回の演奏を通じて感じたのは、皆様あまり表には出さないけれど、心に深い傷を負ってしまったことです。最初は無表情に近かったのですが、曲が進むにつれ、皆様口ずさんでくださったり、声を出して下さったり、最後に声をかけて下さったりしました。

実際に被災地へ行くことができ、目や体で現実を知ることができました。テレビの中でおきている事ではないのです。これからも、少しでもお役に立てるのであれば私達は、一音楽家として被災地を訪れたいと思いました。

【仙台フィルの大宮公演に友情出演】

6月19日大宮ソニックシティで**「東日本大震災復興応援　つながれ心!!つながれカ!!仙台フィルハーモニー管弦楽団　復興チャリティ・コンサート」**が行われました。会場は 2000 名を越す入場者で、復興への響きに大きな声援が送られました。主催は、大宮ソニックを運営する（財）埼玉県産業文化センターです。指揮は仙台フィル正指揮者の山下一史さん、ソリストは仙台出身のピアニスト小山実稚恵さん、曲目はショパン：ピアノ協奏曲第 1 番、ドヴォルザーク：交響曲第８番他。日本フィルからは、弦楽器奏者１０名が友情出演しました【ヴァイオリン斉藤千種・平井幸子・神尾あずさ・大貫聖子、ヴィオラ中川裕美子・鈴木恵里子(フリー)、チェロ江原望・大澤哲弥、コントラバス高倉理実・菅原光)。仙台フィルは震災後、金沢での「復興支援コンサート」、サントリーホールでの「応援チャリティコンサート」、ラ・フォル・ジュルネ新潟への出演など、「被災地の希望の灯＝仙台フィルを応援しよう」と音楽家たちが連帯するコンサートに相次いで出演しました。この日の終演後は、山下さん、小山さんをはじめ仙台フィル・日本フィルのメンバーがロビーで募金活動を行いました。この日の入場料は全額が被災地の復興や仙台フィルの支援にあてられるとのことでした。

＊6月30日現在の募金総額　4,907,852 円（会場募金　2,695,879 円、郵便振替・銀行振込等　2,211,973 円）

＜本号掲載の訪問先＞

南相馬市原町第二中学校体育館避難所
6月25日福島県二本松市 JICA 二本松研修センター避難所
同市あだたら体育館避難所
南相馬市鹿島保険センター避難所
6月26日福島県大玉村　フォレストパークあだたら避難所
南相馬市原町第二中学校体育館避難所
道の駅南相馬
原町第一小学校体育館避難所

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第４号＞

2011 年8月 20 日

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【宮城県南三陸町志津川の避難所で、日本フィルと仙台フィルが金管五重奏＆木管五重奏コンサート。そして地元中学・高校の吹奏楽部生と合同演奏】

７月 10～11 日にかけて日本フィルの金管五重奏と、仙台フィルメンバー中心の木管五重奏が南三陸町志津川を訪れました。今回の訪問の目的は志津川中学と志津川高校の吹奏楽部との合同演奏です。「被災地に音楽を！」の運動のもう一つの目標が被災を受けながら東北で頑張るオーケストラ＝仙台フィルとの協力があります。今回は仙台フィルにも呼びかけ、共同の取り組みとなりました。金管五重奏のメンバーはトランペット客演首席奏者のオッタビアーノ・クリストーフォリ、副首席の星野究、ホルンの原川翔太郎(賛助)、トロンボーン首席の藤原功次郎、チューバの西口学(賛助)。木管五重奏は仙台フィルのフルート芦澤暁男さん、オーボエ西沢澄博さん、クラリネットは日本フィルの芳賀史徳（宮城県出身）、ファゴット水野一英さんが参加しました。

志津川の高台にある中学校、高校は被災を免れ被災当初から町民の避難所となっています。体育館の中は冷房もなく、蒸し風呂状態。この環境で「暮らしている方々」の苦境はいかばかりかと想像します。リハーサルに先立ち中学校顧問の及川先生は、「3/11 当日、生徒たちは下校前で、目の前で街が流されるのを目撃しました。その後１週間から２週間、電気も水もない不安と恐怖のなか父兄の迎えを待って学校で待機しました。親や親せきをなくした部員、やむなく転校した部員、さまざまな変化のなかでも吹奏楽コンクールに出ようという目標をもって、部活動に取り組んできました。音楽に集中している時、それは生徒たちにとってみんなで励ましあっている、と実感できる一番充実した時間でした。」と述べました。

高校、中学のそれぞれの部員との合同練習は約１時間、指導の先生はパートごとの指導に時間をとり、オーケストラメンバーとの幸運な出会いを重視しました。９人のメンバーの加わった演奏は見事な出来栄えでした。日本フィルに来て２年、3/11 の地震を経験した 24 歳のオットーにとって、今回の訪問は本人からの強い希望で実現しました。日本人とは違った視点から率直な感想も含めレポートにし、寄せてくれました。

＜ここに希望の光がある　――　オッタビアーノ・クリストーフォリのレポート＞

日本フィルより、東日本大震災の被災地である宮城地方にて、今回、僕たちが行った、チャリティーミニコンサートの印象を書いて欲しいと頼まれた。これは、ちょうど震災の４ヵ月後にあたる７月 10 日・11 日の二日間にわたって、僕たちが南三陸という町を訪問したものだ。10 日の朝、東京を出発、東北新幹線で仙台へ。そこから車で志津川高校へ向かう。到着後、金管、木管それぞれのアンサンブルのリハーサル、続いて、学校の生徒たちのバンドとの合同リハーサル。そして、コンサートを行い、その日のうちに東京へ戻る。

今回のアウトリーチは、一見、通常の、これまでに何度もやってきたものと同様のプロジェクトのようでもあったが、でも、違った。僕たちは大きな悲劇の中心地に向かっていた。それも、他人の悲劇ではなく、日本全体にとっての悲劇であり、日本にとって最悪の悲劇だった。

今回の目的地がどのような様子なのか、僕は正直よくわかっていなかったが、多くを尋ねることもしなかった。ただ、僕らの宿泊は安全で大きな場所になること、そして、学校は普通どおりやっていて、生徒たちのブラスバンドも通常通りの練習を再開できているということだけ知っていた。

道中、僕の目は地震の爪あとを追っていた。もちろん、家や建物にその跡は多く残っていた。だが、どの建物もそもそも地震に対して万全の備えをしているのであろう、完全に崩れ落ちているようなものは全く無かった。もしかしたら骨組みや構造上の問題ですでに使えなくなっている建物もあったのかもしれないが、ただ、その外見からは、地震の際にその中にいた人々は、おそらく余裕を持って助けられただろうと思わせ、安堵を覚えた。屋根だけが壊れていたり、道がまだ崩れていたりする様子を見ても、日本の人々が長年、地震対策に努力してきたおかげで、多くの命が救われたことが感じられた。だが、その思いは、丘を下がっていくと完全に裏切られてしまった。

丘の下には、何の希望も残されていなかった（**写真右**）。この一帯ではどこにも逃げ場がなかったのだ。ここにあったものはすべて

流されてしまった。建物が新しかろうが古かろうが、大きかろうが小さかろうが、老人だろうが子供だろうが、何の区別も無かったのだ。目の前に広がっている光景が、僕らに命を与えてくれる見えない力は、同じようにいとも簡単に命を奪うのだということを、僕に初めて、そしてはっきりと教えていた。

目の前の全てが、永遠に失われてしまっている。世界中で、ネットや新聞やビデオで繰り返し見られた光景を、ここで繰り返して述べるつもりはない。しかし、テレビでは死というものの匂いを感じることは決して出来ない。この絶望の、非現実的な沈黙を聞くことはできない。

全ての希望を失って、失われた親兄弟の記憶を深く深く掘り起こしながら、ただ黙って、朽ち果て丸裸になった故郷を見つめる祖父母たち、父母たちの呆然とした表情を味わうことはできない。今はただ、僕らの口の中も心の中も、沈黙が支配するだけで、何の声をかけることもできない。僕には何の希望も見出せず、一体この土地はどうやって再び立ち上がることが出来るというのか、この何もないところから、一体誰が起き上がるのか、という思いを抱くばかりだった。

（志津川高校体育館での単独リハーサル）

そしてその問に対する答えは、思いのほかすぐに、しかも大きな喜びと驚きをもってもたらされた。到着すると、僕たちは単独リハーサル、そして学校バンドの生徒たちとの合同練習を行い、ホテルに移動してコンサートを行った。敬いに満ちた厳かな雰囲気の中、大きな部屋で演奏をした。この場所は普段は人々が食事をする場所で、豪華な装飾があったり、大切な置物が置かれていたりする。1 年前だったら、ここにいる人々はきっとこの美しいホテルの、海を臨む眺望の良い部屋でのコンサートを心から楽しんだことだろう。しかし今は、そのように感じられる人はここにはいない。こんな贅沢はすぐにでも投げ捨てて、一刻も早く自分の家に戻りたいと皆が思っている。しかし、そんな複雑な思いを抱く人々の前で、僕たちは演奏した。できることなら、ほんのわずかな時間でも、彼らの心に新鮮な空気が流れるように、そして出来る限り丁重に、人々に対して無礼に見えないように。そして人々は、日本人らしく威厳と礼儀正しさをもって、僕たちを扱い、感謝してくれた。

（高校生との合同リハーサル）

この中学校と高校は、この町の別々の丘の上にそれぞれ建っており、丁度その間に町が広がっていた。学校からは、丘に囲まれた美しい湾が見渡せた。3 月 11 日の 14:46、生徒たちはここで練習をしていて、皆無事だった。ここにこそ希望の光があったのだ。

（避難所「ホテル観洋」での単独コンサート）

地震の直後、すぐに動ける人々は皆、この学校のある丘に避難した。そして津波が押し寄せ、彼らの町を打ち消してしまう様を、ここから眺めたのだ。子供たちの中には、ほとんどの家族をこのときに失ったものも多い。他に行き場がないため、数週間この学校で過ごしたという。しかも少なくとも 1 週間は電気も水もなく、食物も充分にはなかった。

それなのに、わずか 4 ヵ月後には、彼らは皆揃ってきれいな制服 を着て、きっちりと折ったリボンを身につけ、礼儀正しく美しいマナーを見せて、他の多くの日本人と同様に、僕を感心させている。教師の言うことに真剣に耳を傾け、黙ってきっちりと演奏する。まるでジャングルの中のアラビア市場のようなリハーサルばかり聴いてきた僕は、いつもこの日本人の礼儀正しさに驚かされるが、今回もそれは同じで、まるで何事もなかったかのように、日本のほかの地方の普通の学校の様子を見ているのと変わりない。

（志津川中学校での合同リハーサル）

東京からプロの演奏者が学校に来ることに皆ワクワクして、楽器をピカピカに磨いて学校へ持って行き、その日が終わって家に帰れば、大喜びで、撮った写真をブログに up したり、家族や友達に見せたりし、そしてもしかしたら音楽の勉強を続けてプロの演奏者を目指そうと思う子供もいるかもしれない。コンクールの課題曲をもっと上手に演奏するにはどうしたら良いかという質問を受けた。もちろん、うまく演奏することは大切で、その気持ちはよくわかる。皆が一生懸命で、指揮者が棒を持ち上げたら、誇り高く楽器を持ち上げる。

僕らの演奏中には、生徒たちの熱い視線を感じた。演奏者も観客も、部屋にいるのは皆同じ人間だ。とりわけ生徒たちとの合同演奏では、部屋にいる全員が音楽に集中していた(**写真左**)。音楽とはなんと素晴らしいものなのだろう。人間の創造物で最も神に近い存在。音楽の前では、皆が同等で、誰もが音楽を理解することができ、誰もが音楽から喜びを見出すことができる。この日、この学校で、僕たちはこの国の希望の象徴を見た。未来がちゃんとそこにあること、そしてこれまで何度も蘇ってきたのと同様に、日本はこの困難から必ず立ち上がるのだという保証を。

その朝、学校の様子は全てが普通だった。太陽は照り、海からは気持ちの良い風が吹いていた。昼には美味しい弁当を食べていると、子供たちが大きな声で話したり、楽しそうに笑ったり、フォルテッシモで音を出して楽器のウォーミングアップをしたりしている。僕が、『トトロ』の曲をその日演奏するために、何度も何度もビデオを見たけれど、全然ストーリーがわからなかったと話すと、聞いていたおばあさんたちはとても笑っていた！

皆で写真をたくさん撮って、サインをたくさんして、その日は終わった。人々は何度も何度もお礼を言ってくれて、頭を下げ握手をし、最後に車が出るときには、手を振りながら「ありがとう」、そして僕に向かって「I love you!」と叫ぶ人までいた！

車が 50mほど丘を下りると、朝のコンサートの喜びは終わりを告げて、もう現実に引き戻される。多くの生徒たちにとって、この日の写真を見せる家族はいなく、ブログを読んでくれる友達はいなく、もらったサインを掛けておく自室の壁は存在しない…。
あるのは希望。彼らこそがみんなの希望なのだ。がんばって！

（日本フィル客演首席トランペット奏者　オッタビアーノ・クリストーフォリ）

【訪問した志津川中・高校吹奏楽部の生徒さんからお礼のメッセージが届きました。その一部を紹介します。】

♪先日の演奏は大変すばらしく感動しました。また「銀河鉄道」を一緒に演奏していただき、指導までしていただきありがとうございました。今でも、すぐそばで鳴り響く美しい音が心に残っています。息の使い方、表現の仕方などたくさん具体的に教えていただき、またオットーさんからはメンテナンス用品やお手紙までいただき感激しております。この出会いを忘れず、これからの演奏に生かしていきたいと思います。

（中学３年生）

♪先日はお忙しい中、南三陸町に素敵なメロディを届けてくださり、ありがとうございました。私たちは日本フィルさん、仙フィルさん、ソロで活躍する方々の演奏を聴くのをとても楽しみにしていました。何より楽しみだったのは、プロの方々と一緒に演奏できる合同演奏で、貴重な機会だったので、とても緊張しました。演奏会前日の練習風景を見て、初見でもまるで練習したことがあるかのようにペラペラ吹いていて、とても驚きでした。プロのすごさを改めて実感しました。練習でもあんなに上手だったのに、本番では違う音色になっていたことには、もっと驚きでした。一音一音に色々な思いが込められていると伝わってきました。皆様の復興への思い、「助けたい」という気持ちが心に入ってきました。

元気の出る曲、心に響く曲、優しい曲・・・。町を失い、家を失い、心に空いてしまった隙間を埋めるひとつのピースになりました。復興には、これから何十年かかるか分かりませんが、南三陸町の未来を創り上げていくのは、私たち高校生だと思います。

皆様方にしてもらった復興の手助けの恩返しとなる町の復興を、必ずしてみせます！本当にありがとうございました☆
また、ぜひ来てください。

（高校１年生）

＊8 月 20 日現在の募金総額　6,021,934 円（会場募金　2,755,535 円、郵便振替・銀行振込等　3,266,399 円）

8／6 気仙沼市の三ヶ所に弦楽四重奏をお届けしました！！

８月６日、気仙沼市の三ヶ所（幼稚園と避難所）に弦楽四重奏で音楽をお届けしました。メンバーはヴァイオリンの斉藤千種・坪井きらら、ヴィオラの新井豊治、チェロの久保公人です。その中で、もっとも若手で今年の春に入団した坪井きららが感想を寄せてくれました。本人も秋田県の出身です。ぜひお読みください！！

小泉中学校の体育館に集まってくれた避難所の皆さん

ー「法律相談」とのコラボで演奏！！ー

宮城県気仙沼市にて、東京青年司法書士協議会の方々の現地での法律相談や心の相談の活動と共に、私たちは気仙沼市内の３か所で慰問コンサートを行いました。

１回目は、愛耕幼稚園の敷地内に建つ、日本バプテスト気仙沼教会の礼拝堂で行い、２回目は小泉中学校の避難所となっている体育館で。３回目は、階上小学校の避難所となっている教室で演奏をさせて頂きました。

街一番の「繁華街」に打ち上げられた船

ー校庭の仮設住宅と体育館の避難所ー

小泉中学校の体育館では、今もまだ多くの方が暮らしており、校庭には９３戸の仮設住宅が建ち並んでいました。階上小学校では、空き教室に数組の家族が同居し、食事は届けられたお弁当を食べる。そんな生活が、震災から５カ月が経とうとしている今もなお続いていました。

私たちは、この様な状況の中で毎日を過ごされている方々に、音楽に触れる事で、一時でも日々の不安を忘れ 心労を癒し、楽しんで貰えたらと思い、心を込めて演奏をさせて頂きました。

集まって下さった皆様は、私たちの演奏に合わせて手拍子を打ったり、歌ったり笑ったり、楽しそうに聴いて下さり 和やかな時間を過ごされているようでした。しかし、私たちが帰った後も、彼らの避難生活は続き、被災した事実は消えないのだと思うと、自分の無力さを感じずにはいられませんでした。

道の真ん中に流されてきたコンクリートの「箱」

ー被災地の惨状には言葉もないー

車で会場から会場へと移動する間に、気仙沼市内の今を見せて頂きました。気仙沼の市街地は、重油タンクから漏れた重油に引火して火災が起き、焼け焦げた瓦礫の山が何度もメディアに取り上げられていたので、ある程度は想像もし覚悟もしてはいたのですが、映像でしか見ていなかった光景を目の当たりにして、本当に出てくる言葉は何もありませんでした。

テレビ等で報道される以上の過酷な現実が広がり、ひっくり返った家屋、１階部分が鉄骨の柱以外は完全に無くなり ２階部分だけが残る建物、真黒に焼け焦げたバス、ぺしゃんこに潰された車、いまだ海水の引かない住宅地、沿岸部に近づくと、大部分の瓦礫が除けられ更地となった街の中に、第十八共徳丸の巨大な船体が津波の被害の甚大さを物語るように鎮座していました。震災直後からすると格段に復興が進んでいるとはいえ、それらの光景は、これから先も決して目にする事はないと思うほど凄絶なものでした。

ほんの数百メートルの場所の違い、ほんの数メートルの高さの違いで、しっかりと残る街と、津波に押し潰され焼かれ瓦礫の山となった街。明暗を分けるその差は、僅か数センチだったかも知れないと思うと、その悔しさは察するに余りあるものがあります。

ー故郷、東北への思いー

学校の図書室が避難所になっている階上小学校

そんな体験をされた被災地の人々に、音楽を届ける事が本当に励ましや癒しになるのか、気仙沼の街を実際に見て 正直 とても不安になりました。東北の人間は忍耐強く、口下手な部分はあっても心根の優しい人が多いと感じています。多くは語らないけれど、相手を喜ばせようと心を尽くすような気質から、わざわざ東京から来てくれたのだから聴いてみようかと集まって下さった方々に、私はどれだけ心に響く音楽を届ける事ができたのだろうかと、今も自分の中に少なからず疑問が残ります。それでも、演奏終了後 口々に『来てくれてありがとう』『とても楽しかった』『もっとたくさんの人に聴かせたかった』と仰って下さる皆さんの言葉一つ一つに、私自身がむしろ救われる思いでした。

このような現実に身をおかれている方々に、私たち音楽家が出来る事は決して多くはないかもしれません。でも、今 大変な状況にありながらも日々を懸命に生きる被災地の皆様に音楽を届ける事が出来た事も、それを可能にし 支えて下さった方たちへの感謝の気持ちを忘れてはいけないと思いました。そして、これからの被災地の未来を担う多くの子供たちに、もっと音楽を届ける事が出来たら彼らの夢や希望の大きな糧となるのではないかと強く感じました。（坪井きらら　記）

＜本号掲載の訪問先＞

７月１０日宮城県南三陸町　ホテル観洋避難所
７月１１日　　同町志津川中学校多目的ホール
８月６日　宮城県気仙沼市　　日本バプテスト教会(愛耕幼稚園内)
同市小泉中学校避難所
同市階上小学校避難所

《 付録 》

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第５号＞

2011年10月17日

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【宮城県石巻市・仙台市の避難所や福祉施設などで、日本フィルの弦楽四重奏】

♪体育館から世帯単位で仮設住宅入居へ、しかし新たな課題が･･･（北上中学校で仮設住宅の皆さんへ）

「被災地に音楽を」訪問コンサートで、10 月４日～7 日、日本フィル弦楽四重奏のメンバーが宮城県の石巻市と仙台市を訪れました。前日３日に仙台市電力ホールで、また翌４日の昼間に東松島市鳴瀬第一中学校と、２つのチャリティコンサート(主催＝フコク生命)を終えての訪問でした。石巻市は全人口約 16 万人の内、約４千人が亡くなったり行方不明だったりと、被災地域の自治体単位では一番の犠牲者数となりました。４日は石巻市立北上中学校で隣接の仮設住宅の皆さんに聴いていただきました。高台にある学校から見降ろす更地は、津波で建物が流され基礎さえ無くなってしまっています。一軒残った家も１階の壁が突き抜けており、津波の勢いの凄まじさを今に伝えています。私たちを迎えてくれた北上中の畠山校長は「この北上地区でも、まだ 70～80 人の行方不明者がいます。役場の職員は殆どが犠牲になりました。この津波で生き残った人も、その多くが家や家族や仕事を失いました。ボランティアでなくてもいいから、街のこの異常な状況を全国の人に見に来て欲しい」とおっしゃっていました。避難所から 40 人あまりの方が集まり、夜７時からコンサートは始まりました。メンバーはヴァイオリン：松本克巳・加藤祐一、ヴィオラ：新井豊治、チェロ：久保公人。

「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、「荒城の月」、「見上げてごらん夜の星を」、ドヴォルザーク「アメリカ」等を演奏し、大きな拍手をいただきました。初めて聴く曲でも一音一音かみ締めるように、何度もうなずく姿が印象的でした。アンコールにタンゴの「エルチョクロ」と「星に願いを」。更なる拍手に応えての「青い山脈」に皆さん大喜び。手拍子と大きな歌声が、体育館に響き渡りました。「この体育館には、震災直後は約 300 人が避難、仮設住宅完成で全員が移り、現在ではプライバシーは保たれるようになりました。しかし家族を失い一戸に１～２人で住む方も多く、孤独感や寂寥感も積もり、どうやって相互のコミュニティーを維持するかが課題です。被災地は冬の寒さ対策と心のケアへと、その課題がシフトしてきています」との校長先生の言葉が、耳から離れません。

♪近くに仮設住宅のほか瓦礫の集積場も。大学構内で癒しの調べ･･（石巻専修大学で仮設住宅の皆さんへ）

（石巻専修大学）

５日は、大規模な仮設住宅が近接する石巻専修大学で、大学生含め仮設住宅にお住まいの約 60 人の方に聴いて頂きました。大学には「災害ボランティアセンター」も設置されています。周辺には沿岸部から運ばれた大量の瓦礫や、被災した車の集積場があり、無造作に積まれた車の山に思わず息を呑みました。広大な敷地に校舎が点在する、ゆったりとした大学で私達を迎えてくださったのは、作曲家でもある近藤裕子教授。かつては日本フィル定期会員とのことでメンバーともすぐに意気投合。演奏は授業の合間の昼休みに、学生ホールで行われました。「愛の喜び」「ジュピター」等、11 曲を演奏し、「震災後から半年が経ち、今までは音楽を聴く気になれなかったけれど、ようやく音楽を聴ける生活に戻れた気がする」、「一時間も演奏してくれるオーケストラ団体は今までいなかった」、「こんなに素晴らしい演奏会を独り占めできるなんて贅沢な時間でした」と口々に喜びの感想をいただきました。「その気になれば、いつでも音楽に触れることができた日常に、一日も早く戻って欲しい」そう思わずにはいられませんでした。

♪女子美術大との連携、幻想的なアトリエで復興願い力強く歌う「ふるさと」‥（「あとりえＤａＤａ」にて）

「川辺の散歩道」のすぐ隣りも更地）

大学から石巻湾に向かって車で 30 分、旧北上川沿いは更に津波の被害の爪痕を残していました、１階の壁が流され柱がむき出しになったビルや家、家の基礎だけになった更地、陸に乗り上げたまま放置された漁船等、そのどれも目の前にして、立ち尽くすばかりでした。その中でいち早く画廊と喫茶店の営業を再開したのが、「川辺の散歩道～あとりえ DaDa」です。ここを舞台に杉並区の女子美術大のヤマザキ教授と鈴木理恵子講師と美大生は、地元の子供たちと津波で漂着した流木にペイントし「龍」を造るワークショップを行ったり、病院のヒーリングアート用に、クレヨン・水彩・パステルカラー・アクリルカラーといった様々な画材で、動物を布に描いたタペストリーを、演奏会場のアトリエに掲示してくださっていました。参加した女子美関係者は、ヤマザキミノリ教授「アートデザイン表現学科ヒーリング表現領域」、鈴木理恵子講師、ヒーリング造形大学院学生～岡田樹、加藤祐子、洪恵娟（ホンヘヨン）、Jude《オーストラリア留学生》の６名です。

中庭に設置された「龍」の体は色とりどりのウロコで覆われ、近づいて見ると、そのウロコ１枚１枚が色鮮やかで、「手をつないでがんばろう」などの復興を願うメッセージも書かれていて、思わず胸が熱くなりました。

40 人程でいっぱいのアトリエに入って、日本フィルのメンバーは壁に掛けられた、色彩豊かに生き生きと描かれた動物たちのタペストリーに目を奪われました。この躍動感溢れる空間での演奏は、きっとお客様に生きる希望をもたらすのでは？と誰もが思いました。午後４時、このアトリエを馴染みとする地元の方々が三々五々集まり、熱気に溢れています。「素敵な絵と日本フィルの演奏を皆さんで堪能し、元気になりましょう」三浦頼子オーナーの挨拶で、メンバーの入場です。お客様の年齢層に合わせ「荒城の月」、「エルチョクロ」、「イエスタディ」など懐かしい曲を中心に１時間はあっという間です。鎮魂の祈りを込めた「Ｇ線上のアリア」で、目頭を押さえる方が多くいらっしゃいました。

アンコールの「ふるさと」は、お客様の心のこもった大きな歌声が会場いっぱいに響き、日本フィルメンバーも感極まった様子。もう一曲「青い山脈」は、大きな手拍子も加わり会場は大興奮！演奏直後に席を立ちながら拍手また拍手のスタンディングオベーション!!

（女子美術大学の皆さん）

「遠くから車で駆けつけました。震災から７ヶ月になりますが、とても贅沢な気持ちにさせていただきました」と、晴れ晴れとした表情で話される方や、タペストリーに対する質問を女子美大生にされている方もいて、帰り難いお客様でいっぱいでした。

♪11 日を期限に退去される避難所の皆さんに、急遽、演奏のプレゼント（宿泊した追分温泉旅館にて）

「あとりえＤａＤａ」併設の喫茶店で温かいお茶をご馳走になり、興奮冷めやらぬオーナーやお客様との懇談が続き、気が付いたら６時過ぎ。当初の日程では、この日の演奏はこれで終わりでしたが、昨晩から宿泊している追分温泉旅館は 20 人の被災された方を受入れ、営業中止し避難所となっており、「10 月 11 日には市の宿泊補助金が切れ、多くの方が地元から離れた仮設住宅に移らなければならない」との旅館の女将さんの情報で、急遽、旅館での演奏を７時 30 分から約束していました。急いで車に乗り込み旅館に向かいましたが、到着したのは開演の 20 分前！しかしメンバーは疲れも見せず、定刻どおりの開演です。聴いていただいたのは避難されている方に加え、復興工事に従事されている職人さんや、イギリス BBC 放送局の取材クルーの方、日本フィル定期会員の石巻の実家のご家族など含め約 40 人。旅館のたたずまいに合わせた「峠の我が家」、女将さんのかわいいお嬢さん２人のために「となりのトトロ」、イギリスにちなんで「イエスタディ」、「ジュピター」、30 分あまりの演奏でしたが大変喜んでいただき、メンバーの表情も清清しさに溢れていました。

♪津波は介護施設も容赦なく飲み込み、入所者は仙台へ避難･･･(仙台市の介護施設の皆さんへ)

前日５日の大学＆アトリエ＆宿泊避難所と３ステージをこなしたメンバーは、仙台市内の介護施設へ向かうため、６日早朝に名残惜しくも石巻を出発しました。今回の震災と津波で多くの介護福祉施設も被災し、宮城県内では仙台市内の施設へ転所された方が多くいらっしゃいます。向かう先は仙台中心部から北に車で 30 分程、泉区の介護老人福祉施設「泉ふるさと村（泉白陵会）」です。ここには福島から入所された方も含め、利用者約 120 人中 20 人は震災後に来られたとのこと。車椅子やストレッチャーに乗られたお年寄りも含めロビーは満杯。「みなさん、ちゃんと息してますか～ッ？演奏聴いたら、約束どおり大きな拍手ですよ～ッ！それでは日本フィルの皆さんお願いします！」施設長の明るい挨拶で演奏開始です。最前列に陣取り、演奏に合わせ気持ちよさそうに体を揺らすおばあちゃん。介護ボランティアさんのリードで「青い山脈」を歌うおじいちゃん・おばあちゃんに、メンバーも思わず弓に力が入ります。

「ご家族と離れ沿岸部から移られたお年寄りは、面会の方も頻繁には来られず、寂しい思いをされています。こんなに元気に歌う人だったのか？と改めて思わせてくれる方がたくさんいました」。施設職員の方の、上気しつつ話された笑顔が今も忘れられません。

♪五感を刺激する生の音楽が、素直な反応引き出しました（仙台市の障害者施設の皆さんへ）

10月7日この行程の最後の訪問地は、昨日と同じ泉区の総合福祉施設「愛泉会」です。こちらも仙台湾沿岸部で平地の殆どが浸水した若林区荒浜地区の施設から50人を受け入れています。会場は知的障害者施設「幸泉学園」の食堂で、隣接の介護施設のお年寄りも含め、20歳代～70歳代の約50人の方々に聴いていただきました。「愛の喜び」「となりのトトロ」「エルチョクロ」などテンポのある曲を中心に、楽器紹介も交え８曲を演奏。アンコールに「ふるさと」、何所でも大受けだった「青い山脈」で大喝采。楽器をケースに収め退場しようとしたメンバーに突然、三度「アンコールッ!」の声が掛かり、メンバーも笑顔でもう１曲「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」の４楽章をプレゼント。生徒さんの素直な反応と、一緒に聴いてくださった職員の方々も日頃の仕事の手を休め、演奏に浸っておられる様子に、改めて生の音楽の力を感じました。

今回、被災地７箇所で演奏しましたが、特に石巻市は震災と津波の惨禍から７ヶ月を経て、瓦礫の撤去や仮設住宅への移転等、住民の方は（私たちの前では）ある程度、落ち着きを取り戻しているように振舞っておられました。「あんなに大きな津波が来るなんて、誰も思っていなかったもんなあ～」北上中学校の校長先生は努めて明るいのですが、合間に見せる険しい表情は被災地の方々の心の痛みの深さを、教えてくれているようでした。「うちは主人が津波に流された」「1人ならまだいい。うちは３人だべ」こんな会話が日常交わされているこの現実。それを正面から受け止め、前を向いて生きて行く上で、家族を・家を・仕事を失った方々の心に空いた隙間は、「助け合い」という地域の「絆（コミュニティー）」で、多少でも埋めることが出来るのかもしれません。

その「絆」の再構築に、生の音楽、特に世代間の嗜好の垣根の低い「クラシック音楽」が何かお役に立つのではないか？とひしひしと感じました。また、演奏家とならなければ出会うことのなかったであろう、多くの方々の熱烈な歓迎を受け、その「幸せ」と「使命感」を新たにする日本フィルのメンバーでした。

尚、本文中で触れられませんでしたが、石巻市各地の訪問は、石巻市立北村小学校の石垣好春先生にコーディネートしていただきました。また「あとりえDaDa」、仙台市内の福祉施設２箇所については、フコク生命の本・支社に会場交渉・日程調整等、開催に向けご協力いただきました。文中でお名前を掲載させていただいた皆様と併せ、ご自身も被災されているにもかかわらず、ご尽力いただき、改めて深く感謝申し上げます。

私達は今後も、被災地に音楽を届ける活動を継続してまいります。

＊ **９月30日現在の募金総額　6,526,562円**
（会場募金2,808,989円、郵便振替・銀行振込等3,717,573円）

この仙台・石巻への被災地でのコンサートは、「アフィニス文化財団」から助成を受けています。

＜本号掲載の訪問先＞
10月４日宮城県東松島市立鳴瀬第一中学校
　　石巻市北上中学校(避難所近接)
　５日　同市石巻専修大学(避難所近接)
　　同市「あとりえDaDa」(協力:女子美術大)
　　同市追分温泉旅館(避難所)
　６日　仙台市「泉白陵会」(介護施設)
　７日　同市「愛泉会」(障害者施設)

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第６号＞

2011 年 11 月7日

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【福島県いわき市の３箇所で弦楽四重奏、そして金管クリニック】

今回の震災では、さまざまな団体がそれぞれの特色を生かしてボランティア活動を行っていますが、被災地いわきに定期的に「青空レストラン」を派遣しているケータリングの会社から、一緒に演奏をプレゼントしたいという申し出を受け、避難所だった学校を訪問しました。この会社は自ら「たつみ皆援隊」と名乗り、会社の敷地内で地域の方々とともにバザーを行い、その収益をもとにいわき市の学校の避難所の一角に「無料本格イタリアンレストラン」を開設、蝶ネクタイをしたウエイターがテーブルクロスのかかったテーブルに陶器の食器で温かいコース料理を提供するという、洒落たサービスを提供してきました。被災者を「炊き出し」漬けにさせない、食事の「文化」をとりもどしてあげたい、という心意気に私たちも感動しました。避難所はすでに閉鎖されていますが、この学校の校長先生を通じて、10 月 20 日と 21 日に二つの学校と集会所で演奏をプレゼントしました。弦楽四重奏団に同行し、江名中学校の金管バンドに楽器指導を行った伊波睦（トロンボーン奏者）によるレポートです。

♪震災の爪痕、所々に･･･。弦楽の伴奏での校歌斉唱と金管クリニックで中学生励ます

10 月 20 日午前 8:00 東京駅ロケバス出発、目的地は福島県いわき市。常磐道のインターをおりたとたん車がジャンプ。ああこれが地震の爪痕なのだ。風景は、ぼけっとしていると地震があったなんて気がつきません。予定より早く着きそうなので、小名浜の「アクアマリンふくしま」へ。津波のため割れた分厚いガラス水槽。瓦礫で作られた野外舞台。テレビでさんざん観たことが現実におこっているのです。次にこのコンサートの世話役の一人 W さんの家に途中下車。被災者であるご本人から説明がありました。海沿いのこの家は幸いにして残りましたが、市民へ津波警報を伝えるため犬を繋いだまま自宅を出たためワンチャンは３日後に犠牲になって見つかったとのこと。

（アクアマリンふくしま）

その後、避難所になっていた高台にある江名中学校に到着。ここの体育館には 6 月まで 150 名の方が暮らしていました。そこへ救援物資を運び炊き出しを続けていた「たつみ皆援隊」が今回のコーディネイターで、日本フィルに演奏を依頼。コンサートが実現しました。

今回の弦楽四重奏のメンバーは日本フィル OB のヴァイオリン三本克郎、ヴィオラ山下進三、チェロ奈切敏郎、それに現役ヴィオラ新井豊治のお嬢様、新井布実さん。日本フィルは東京定期演奏会のため、代演で応援に駆けつけていただきました。到着後休憩もとらず、体育館の音響の良い所を探し大急ぎで舞台セッティング。舞台といっても体育館の運動スペースに椅子と譜面台を 4 セット並べるだけ。体育館を横に使うか縦に使うかで音響効果は違うのです。江名中学校では横にしました。

（瓦礫で作られた野外舞台）

すでに用意してあった父兄用の椅子も並びかえます。演奏者はリハーサル中。リハーサルで重要なのは校歌の打ち合わせです。先生にテンポの指示を仰ぎます。学校から送っていただいたピアノ譜を元に各自音を拾っていきます。弦楽四重奏用の楽譜はないため、ピアノ譜からの採譜には苦労します。

今回のプログラムは、モーツァルト:ディベルティメント、クライスラー:美しきロスマリン、愛の悲しみ、愛の喜び、ドヴォルザーク:弦楽四重奏曲「アメリカ」より第１楽章、レノン&マッカートニー:イエスタデイ、校歌。

45 分しっかり聴いていただきました。生徒代表の挨拶は「津波で家は壊れ、町は閑散として、とてもせつない思いで暮らしていました。しかし、今日はじめて、ピアノや吹奏楽部の演奏でない、弦楽器で演奏される校歌を一緒に歌って、気持ちがフレッシュになりました。また頭を切り替えて、前向きにものごとに取り組んで生きたいと思います。」原稿も見ず、自分のことばで、顔をしゃんとあげてはっきりと話してくれ、私たちの心にも響くものでした。

放課後、吹奏楽部の指導を伊波睦が担当しました。優秀なバンドでコンクールでは良い成績をとっています。今回は基礎であるチューニング、バランス、ブレスの仕方等、体験をまじえた話から自ら感じ取ってもらうことをやってみました。とても熱心な態度で感心しました。あまりにも元気な返事なので、今日は返事無用をお願いすると、どうしても習慣で「ハイ」が出てしまいおかしかった。

♪地域の皆さんにも、弦の調べをプレゼント。アフターの懇親会は有意義な交流に･･･。

夜は下神白第一集会所で町民へのコンサート。45 人ほどのアットホームコンサートは室内楽を身近に楽しんでいただきました。その後の懇親会で震災後の様子をうかがうことができたのは貴重でした。やはり報道では伝わらないことがあるのです。紙面で書くことをためらうことも･･･。

♪弦楽四重奏をまじかに耳と目で体感

翌日は内郷第二中学校へ。ここは先日の江名中学校の校長先生が 8 月から赴任した学校。その縁でコンサートが実現。生徒数 150 名と少ないため、演奏者を囲むように座ってもらいました。カブリツキ。これって演奏者にプレッシャー。おかげでとても緊張感のあるコンサートになりました。担任の先生にももっとコンサートを楽しんでいただきたかったです。どうしても生徒の態度が気になってリラックスできないのですね。今度プライベートでコンサートにお越しください。校長先生はいたく弦楽四重奏版の校歌がお気に入りで、特別に後で録音して差し上げました。この校長は名物校長で地域に完全に溶け込んでいます。

今回初対面の時､｢たつみ皆援隊｣の稲田さんにうかがいました。なぜこのボランティアをしているのか。その答えは明快でした。「何の縁もないひとどうしが、利害関係もなく何かをする。それが楽しい。」本当にそのような人たちでした。

10 月 25 日現在の募金総額　6,536,562 円
（会場募金 2,808,989 円、郵便振替・銀行振込等 3,727,573 円）

＜本号掲載の訪問先＞

10 月 20 日　福島県いわき市江名中学校
　　同市下神白第一集会所
　　21 日　同市内郷第二中学校

《 付録 》

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第７号＞

2011 年 12 月7日

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【茨城県大洗町の中学校２箇所で弦楽四重奏】

（写真上／南中学校 下／第一中学校）

『被災地に音楽を』訪問コンサートで 10 月 26 日、日本フィル弦楽四重奏メンバーが茨城県東茨城郡大洗町の二つの中学校を訪問しました。３月 11 日の東日本大震災にて太平洋沿岸部に位置する大洗町でも、震度５の強い揺れとともに、５メートルの大津波が町を襲い、ライフラインの寸断と建物や道路、沿岸部に大きな被害が出ました。人的被害としては、死者１名、負傷者７名でしたが、住家屋被害としては、全壊、家屋半壊、床下浸水など 1500 件に及ぶ甚大な被害を受けました。これら震災による被害に加え、東京電力福島第一原子力発電所での重大な事故による放射性物質飛来の影響が出てきています。県内畜産水産物の出荷制限や、放射性汚染水の海洋放出、風評被害により町の農業・水産業・観光業への影響は計り知れません。

その様な状況の下、大洗町にある二つの町立中学校にて、コンサートを行いました。南中学校は生徒数 150 名、教職員 30 名、父母や地元の方 20 名の 200 名程。第一中学校は生徒数 300 名、教職員 30 名、父母や地元の方 50 名の 400 名程の皆様にお集まり頂きました。メンバーはヴァイオリン：九鬼明子・坪井きらら、ヴィオラ：後藤悠仁、チェロ：大澤哲弥。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、クライスラーの「愛の喜び」「愛の悲しみ」、「見上げてごらん夜の星を」、ＳＭＡＰのヒット曲「世界に一つだけの花」等を演奏し、生徒達や地元の皆さんに聴いていただきました。震災の影響にて大洗文化センターホールが休館の為、南中学校ランチルームと第一中学校体育館で開催。会場では小谷隆亮大洗町長も出席されました。ヴィオラ後藤悠仁の導きで、「音楽は音を楽しむもの、じっと聴き入るだけでなく立ち上がってリズムを楽しみましょう」と呼びかけると、多くの生徒達が立ち上がり、リズムを取って盛り上がりました。演奏後、後藤より「まだまだ苦しいこともあるでしょうが、お互いに支えあって一歩一歩前を向いて行きましょう」とやさしく語りかけ、コンサートを締めくくりました。また南中学校の生徒たちとは、ランチルームで給食を共にし、交流しました。

【福島市松川町の４箇所で弦楽四重奏】

今年８月初めに福島市松川町の商工会職員のＴさんからメールが届きました。その内容は、

「 震災後５ヶ月が経過しようとしており、ライフラインこそ復旧はしてきておりますが、福島県民は放射能物質という『目に見えない敵』と、今後、終わりが見えない闘いをしていかなくてはなりません。私達の仕事の一つに、その放射能物質から避難されてくる方々を迎え入れる体制をとらねばならず、またその生活等の支援事業に対応していかなければなりません。 見知らぬ土地での仮設住宅生活に予想以上の不安やストレスを抱えることになると思われます。そこで貴団体様のお力添えを頂き、避難されてくる方々のために、少しの時間でも音楽で癒し、励まして欲しいと思っています。また私は中学生の子供を持つ一人の母親として、私の子供が通う中学校へも音楽を届けてほしいのです。吹奏楽部員でトランペットを担当しておりますが、震災の影響で練習もままならず、先日の県内での地区大会では非常に悔しい思いをしました。どこへ行くのにもトランペットのことばかり考えていた子供なだけに、何と言葉で励ましてよいかわかりませんでした。本来ならば明るい未来が待っている子供達、夢や希望を持つべき子供達なのに、放射性物質と向き合った学校生活を送らねばならず、そのせいで転校していった友達や避難してきた友達を迎え入れる等、不安定な生活を強いられています。そんな環境の中にいなくてはならない子供達も音楽で励まして欲しいのです。」

というものでした。私たちは「行きます！」と即答しました。11 月 24・25 日の両日で４回の弦楽四重奏のコンサートを企画していただくように、お願いしました。

♪「までい（真手＝ゆっくりとていねいに）の村」から全村避難をやむなくされた飯館村のみなさんも参加

（飯館村仮設住宅）

今回のメンバーは日本フィルＯＢのヴァイオリン三本克郎、ヴィオラ山下進三（郡山出身）、チェロ奈切敏郎（川俣町出身）、そしてフリーで活躍している中村ゆか里さんの４人です。主催は松川町商工会商業部会「福島の元気は松川から」プロジェクトです。商工会の職員が総出で事前の準備と当日の会場運営をしました。新聞折込での宣伝や、仮設住宅へのチラシ配布など行き届いた準備がされていました。24 日は午後２時から特別養護老人ホーム「みず和の郷」にて。隣の保育園から２０名の子どもたちが最前列に並び、

車椅子の入所者が８０人、そして職員の方が３０人集まりました。冒頭所長さんが「3.11 以来悲しいことばかりでしたが、今日は幸せを分けてもらいましょう」とやさしく呼びかけました。今回のプログラムはモーツァルト：ディベルティメント、クライスラー：愛の悲しみ、愛の喜び、そしてドヴォルザーク：[アメリカ]より、です。子供たちも大人も高齢者もじっと耳を傾けていました。ここから次の会場に移動する途中で、全村避難をしている飯館村のみなさん 700 名が暮らす仮設住宅に立ち寄りました。日本で一番美しい村「までいの村」飯館からの撤退、３世代が同居する大きな家からの移転、どんな悔しい思いをされているのでしょうか。心がつまります。

（飯野学習センター）

次の会場は飯野地区にあります。ここには飯館村役場の出張所があります。村長室で副村長の門馬伸市さんにお目にかかりました。部屋の中は全国からの励ましの言葉であふれていました。福島市への合併を拒否し独自の村づくりを目指してきた飯館村の 6000 名の村民を守るため、８０名の職員の方たちが、夜遅くまで忙しく仕事をされていました。６時半から飯野学習センターでコンサート。１５０名の入場に商工会のみなさんもびっくりされていました。仮設住宅からもたくさんの参加がありました。隣町の川俣町出身のチェロの奈切さんの同級生や先生らが駆けつけたくさんの「差し入れ」をいただきました。１時間のプログラムの最後は「ふるさと」の合唱。ここでも「砂に水がしみ込むように」音楽が届いていることを実感しました。

♪「音楽を聴いて硬くなった心に隙間が空きました。やさしくなれそうです」

翌 25 日は午前中に市立松陵中学校を訪れました。授業再開以来、生徒たちはこの大きな体育館で体育や部活を行ってきました。朝の授業で女子が柔道、男子がダンスをやっていました。体育館には４５０名の全校生徒が整然と並び、先生と地域の方も約５０名が参加しました。びっくりする位、静かにおとなしく聴いています。最後に生徒会長が大きな声で「音楽とは人と人をつなぐすばらしいものです。ハーモニーが心に響き、勇気付けられました。僕たち松陵中生徒は今回の出来事には負けません。以前の生活をとりもどすため、前進していきます。」とお礼の言葉を述べてくれました。

（松陵中学校）

午後は当初は福島市南体育館の予定でしたが寒くて、とても大きい会場なので、急遽となりの研修所に移動。ここは畳敷きの和室で暖房もきいています。約１００名の方が集まりました。演奏者との距離も近く、みなさんは座布団の上に座って自由な雰囲気。食い入るように演奏を見つめる人、目をつぶってじっと聞き入る人、それぞれの表情が音楽に集中してひきしまっていました。「アメリカ」の終楽章が終わると、わっと大きな拍手がわき、アンコールにビートルズ「イェスタディ」。その世代の方々の心に暖かく響いたようです。さいごの「ふるさと」の合唱では涙をぬぐう人もいました。

地震、原発事故から９ケ月、福島では日々びっくりするような新しい事実が加わり、ますます困難で複雑な環境となっています。
人々は想像を絶する苦難へと変わった「今」と「これから」に向き合わねばなりません。「心の奥に大きなしこりができて」「心がすり減り」「心が折れそうだ」という表現をたくさん聞きました。「音楽のなかに身をひたすことで、硬くなった心に少し隙間が空きました。やさしくなれそうです。」という感想をいただきました。

松川町でのコンサートは、
「公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション」のご支援を受けています。

＜本号掲載の訪問先＞
10 月 26 日茨城県東茨城郡大洗町南中学校/第一中学校
11 月 24 日福島市松川町 みず和の郷/飯野学習センター
　　25 日　　同市松陵中学校/南体育館研修室

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第８号＞

2011年12月15日

発行：(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011東京都杉並区梅里1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【岩手県花巻市の旅館と陸前高田市の中学校で弦楽四重奏】

今、日本で「陸前高田」という地名を知らない人はいるのでしょうか…おそらくはいないと思います。3.11の地震による大津波で市中心部は壊滅状態になり、7万本あったとされる松の木は1本を残してすべてなぎ倒され、白砂青松の高田松原が消滅してしまった陸前高田。今回の被災地に音楽をでは11月21日には大槌町や釜石市などで被災した方々が仮住まいをされている花巻市、22日は陸前高田市へ行ってきました。テレビやインターネット、現地を訪れた人々による体験談だけでは想像できない経験を、肌で感じることができました。

♪６月以来２度目の訪問の温泉旅館で、生のクラシック音楽の「心」を届けました。

今回演奏をしたのはヴァイオリン斎藤千種、太田麻衣、ヴィオラ菊田秋一、チェロ大澤哲弥。20日にオーケストラでのいわき公演終了後、郡山まで高速バスで向かい、そして新幹線で花巻へと移動しました。宿泊旅館の花巻市の「幸迎館」には深夜の到着となりました。翌朝目が覚めて窓を開けると飛び込んできた景色は、一面雪化粧をしていて冬の到来、北にいること、震災後初めて訪れる冬への不安を一瞬にて感じさせるものでした。

メンバーは朝食もそこそこに朝10時から練習を開始、それはお昼を挟み夜７時まで続きました。８時から旅館のロビーにて開演です。この幸迎館では6月4日にもヴァイオリン三好明子、チェロの大石修のデュオで演奏をした旅館です。当時は、まだ釜石や大槌で被災された方々も大勢寝泊りしていて「北上夜曲」などを演奏し、多くの皆様の心を癒すことができたことが思い出されます。現在では近くの仮設住宅に移動しているそうです。

今回も前回聴いていただいた方や仮設で借り住まいの方、またこの日のために気仙沼の仮設住宅から1泊演奏付ツアーでいらした皆様、そして事前に希望(毎日)新聞に掲載された記事を見て来場された方など50人ほどの皆様に演奏を聴いていただきました。モーツァルトの「ディベルティメントK136」で演奏会がスタート。その後トークや楽器紹介も交えながら「愛の喜び」などクライスラーの小曲、イギリス人が編曲をした日本民謡メドレー、ソーラン節、そしてドヴォルザークの「アメリカ」などを披露しました。途中からふらりと立ち寄られた方々も立ち見で観覧されたりで、来場された皆様の微笑みや満足した顔が見られました。お客様のごく一部の方から「やや一般性に欠け、親しみにくかったのでは？」という声もありました。チェロの大澤は、「もちろんポピュラーな曲で親しんでもらうことも大切です、でも自分たちができることはクラシック音楽であり、またせっかく生でその音楽をお届けするのだから少しでもその良さに触れてもらいたい、感じてもらいたいのです」と言っていたのが印象的でした。

演奏後、お客様と交流する大澤（チェロ）

翌朝もメンバーは早朝から練習をしていました。陸前高田へ移動する前に気仙沼から来た人とお話しました。以前どこかであっただろうと錯覚するほどの親しみやすい方で、いろいろとお話を聞くことができました。気仙沼の家は半壊してしまったそうで2階はなんとか無事だったそうです。やはり記憶というものは一瞬にして甦ってしまうもので時折、目を細め、また瞳は深くなり、そして声の抑揚も大きく変化しながらのお話でした。東京から気仙沼へ60年前に嫁いだそうで、若かりしころは空襲も体験して

おり、この度の震災は東京大空襲を彷彿させると言っていました。そして最後に「今から陸前高田へ向かうんです」と告げたところ、突然の涙を流し、「ありがとう、ありがとう」と言葉にならずも何度も繰り返していました。

「道の駅」での写真展示

♪寒さ染み入る中学校の体育館で、生徒と仮設の方々の心を音楽で暖めました

送迎のバスに2時間ほど揺られ、陸前高田の町に入って行きました。途中の「道の駅」には、陸前高田の震災前後の様子が写真で掲載されていて、先に述べた7万本の松など、町の豹変ぶりに背筋が凍りました。高台の頂点にある陸前高田市立第一中学校の校庭は仮設住宅の集合帯となっていました。これだけ高くないと津波は逃れられないのかとも思いました。この中学校の体育館で15時45分、授業の終了後演奏会を行いました。

陸前高田市立第一中学校

佐々木校長先生のお話では、この体育館は3月11日の午前中に落成式が行われたそうです。まさにその日の午後地震による津波、その後は避難所となり、今では壊滅してしまった町の唯一の娯楽施設だそうで、9か月経った現在も頻繁にアーティストやジャズバンドなどの演奏があるそうです。また「日本フィルのメンバーがまさかこんなところまで来てくれるとは思わなかったので一同楽しみしている」とのことでした。極寒の体育館で生徒たちが規則正しく待機する中、メンバーが入場し、いよいよ演奏が始まります。曲目も昨日演奏したプログラム以外に、生徒向けの曲も取上げられました。「ディベルティメントK136」、「上を向いて歩こう」、「アンパンマンのテーマ」、ヴィヴァルディ「四季」から《冬》を解説しながら演奏。そして《春》の第一楽章。最後の「ふるさと」を合唱とあっという間の1時間でした。「上を向いて歩こう」は、仮設住宅の方の涙腺を緩め、「アンパンマン」は生徒たちの身体を左右に揺らし、「ふるさと」ではみんなで声を出し会場を暖めました。

最後に佐々木校長先生のおっしゃられたことは、生徒の半分は家が流されてしまった。震災から9か月たった現在、これから厳しい初めての冬を迎えるにあたって物質的なものより心の支援が必要だ。そして今まで、全国、全世界から助けてもらった思いに、いつか必ず恩返しがしたいとのことでした。屈託のない優しく透明な方言で語られた内容は、今も忘れられません。

11月30日現在の募金総額　6,653,062円
（会場募金2,808,989円、　郵便振替・銀行振込等3,844,073円）

本号掲載の訪問地
11月21日　岩手県陸前高田市第一中学校
　　22日　　花巻市山の神温泉［幸迎館］

ローム・被災地支援コンサート

このコンサートは、
「公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション」のご支援を受けています。

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜ 第９号 ＞

2012年２月

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

日本フィルは 3/11 の東日本大震災以降「被災地に音楽を」送る活動を行っています。
さる 1/20～1/22、岩手県久慈市へ訪問しました（助成：公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション　協賛：ローム株式会社)。そのレポートをお届けします。

【岩手県久慈市へ音楽を】

2009 年に「セロ弾きのゴーシュ」公演のために訪れた久慈のアンバーホールへ､｢被災地に音楽を｣の活動で伺いたい、と震災後すぐに連絡をとり、ホールは無事と聞きました。海辺の 900 戸は流され直下の川にはあと 10cm まで水が来ましたが､ぎりぎり無事だったとのこと。ローム ミュージック ファンデーションより「被災地支援コンサート」の助成金を頂き、久慈市教育委員会、アンバーホール、日本フィルが一体となって急ピッチで公演を作り上げました。

【1/20 第１日目　アウトリーチ：おらほーる】

この地域の子どもたちの数に合わせて、客席数を決定したという地域密着型の「おらほーる（久慈市山村文化交流センター)」はこの日が年初めの稼動日だったとのこと。周辺の小中学校７校より子どもたちが次々にスクールバスで到着しました。山形小学校、小国小学校、霜畑小学校、戸呂町小学校、荷軽部小学校、来内小学校、山形中学校及び一般の皆さんで 300 人ほど。雪だったのでみな長靴をはき、カメラを構えると入口の看板の前でピースサインをして、にこにこと笑顔を見せてくれます。みな素朴で熱心に演奏を聴いてくれました。特に中学生には身を乗り出して聴いてくれる生徒もいました。

【1/20 アウトリーチ：岩手県立久慈病院】

午後は岩手県立久慈病院のロビーでアウトリーチコンサートを行いました。

病院の総合受付の待合椅子を動かし、ステージがセッティングされ､200 人ほどのお客様が集まりました。吹き抜けに響く柔らかな音色に、病院の職員さんたちも集まって、手すりに身を預けてじっと見下ろされています｡時々PHS で呼び出しがかかるようで、忙しく話しながら列を外れるのも病院ならではの風景でしょうか。

【久慈市の被災状況】

コンサートのあと、メンバーはマイクロバスに乗って、アンバーホールスタッフのご案内のもと、沿岸の被災状況を見せていただきました。

地震が起きた時、ホールでは付近の小学校を集めて市の行事を行っていたそうです。地震のあと津波が押し寄せるまでの 30 分の間に、子どもたちを送り届け、職員の皆さんはホールにある展望タワーに上り、「海そのものが盛り上るような」津波を見ました。「通勤車はもっていかれるね･･･」とあきらめていたとのこと。しかし、実際にはアンバーホ

ールを挟むように流れる大きな川が水流を飲みこみ、壊滅的な状況にはなりませんでした。また、住民の皆さんは災害時に備えた避難訓練をよく受けておられ、３月11 日は消防団も水門を見に行くなどの沿岸に近づく行動はせず避難する、と判断されました。行方不明者がおられなかったために瓦礫撤去に重機を使うことができ、久慈の街の復興は早く、街中はほとんど震災前と変わらない風景に見えます。ただ、我々がこの日と次の日にバスで廻った沿岸では、道路標識や、ガードレールが水の流れにぐにゃりと曲がって立っていました。いくらの製造工場が、使う半分だけ取り急ぎ立て直され、半分は鉄骨がむき出しになっていました。

【アンバーホール「動物の謝肉祭」公演】

アンバーホールに訪れる子どもたちの足取りは軽く、入口で日本フィルからの贈り物であるキティちゃんのクリアファイルとパスケースを笑顔で受け取ってくれました。1月 21 日は小中学生と保護者で 150 人ほど。翌 22 日は未就学児から保護者まで、400 人ほどのお客様がホールに集まりました。

アイネ･クライネ･ナハトムジークに始まり、音楽家専門外のおもちゃ（楽器？）と弦楽 3 部の掛け合いが楽しい「おもちゃの交響曲」。プログラムには入っていなかった急遽サプライズプレゼントの打楽器デュオでは、おなべやカップが打楽器として登場しました。武田美和子さんと中井恒仁さんのピアノデュオは「花のワルツ」や、ラフマニノフの＜組曲第２番＞より激しい「タランテラ」。

第１部で色とりどりのアンサンブルを楽しんだあとは、江原陽子さん司会の「動物の謝肉祭」です。杉並の女子美術大学がこの作品のために製作してくれたスライド、江原さんの穏やかな司会が、サン=サーンスの音楽の魅力を最大限に子どもたちに伝えていました。このコンサートにはクラリネットの日比野裕幸さん（元　仙台フィルハーモニー管弦楽団奏者）も助演に駆けつけて下さいました。第３部の「みんなで歌おう」では＜さんぽ＞の歌で、日本フィルの力強いマーチのリズムと、久慈の子どもたちの声が一体となっていました。

「広報くじ」のインタビューを受けた打楽器の福島喜裕は､「音楽家たちが具体的にどういう風に力になれるかというのはすごく弱いものだと思うんです。音楽を通じて、聴きに来られた子どもたち、保護者の皆さん。とにかく子どもと家族が一緒に来られて、一つのところで音楽を共有できるということが最高の幸福ではないかと。今回の音楽会を通じて、希望とか将来に結びつくようなものを感じてもらえればよいですね。」と答えていました。

久慈のバスターミナルで帰りのスワロー号に乗ろうとしたら、運転手さんが驚いて「こんなにたくさんの人がバスに乗ってきたのは、正月以来だ！」と叫んでいました。バスの中で、久慈病院のコンサートを聴いたという女性から「今から東京へ帰るのですか？コンサート聴きました、よかった」と声をかけられました。

＜本号掲載の訪問先＞
1月 20 日　岩手県久慈市山村文化交流センター(おらほーる)
　　県立久慈病院
　21 日　久慈市文化会館
　　「動物の謝肉祭(小中学生向)」
　22 日　同上「動物の謝肉祭(親子向)」

日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜ 第 10 号 ＞

2012 年 4 月

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

【福島県南相馬市・伊達市の中学校 4 校で吹奏楽クリニック＆合同合奏】

（写真上/原町一中　下/桃陵中）

3月 27～30 日にかけて、福島県の中学校４校の吹奏楽部生に対し、クリニックを行ってきました【協賛：MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金、三菱東京 UFJ 銀行、日本ユネスコ協会連盟】。訪問したのは、南相馬市立原町第一中学校(27 日)、伊達市立桃陵中学校(28 日)、南相馬市立鹿島中学校(29 日)、同市立原町第二中学校(30 日)です。南相馬市は日本フィルが本拠を置く杉並区と「災害時相互援助協定」を結んでおり、今回は杉並区役所が南相馬市の教育委員会に働きかけ、三菱東京 UFJ 銀行の協力にて実現しました。

講師はクラリネット/蒲谷隆行、フルート/藤田真頼(賛助)、トランペット/杉本道応(賛助/27～28 日)･星野究(29～30 日)、ホルン/原川翔太郎、トロンボーン/岸良開城(27～28 日)・中根幹太(29～30 日)。前日 26 日に福島駅から車で約２時間、途中、計画的避難区域に指定された飯舘村を通り、南相馬市に入りました。エリアの１/３が避難地点に指定された南相馬からは、多くの方が郡山市や福島市に避難されています。訪問した市内の３校は、避難に伴う転校による部員の減少に悩まされており、中には合奏もままならないという状況の学校もありました。午前・午後の３時間をかけてクリニック、その後、合同合奏⇒講師単独演奏⇒パートリーダーと先生からの感想発表⇒記念撮影、という流れですすめられ、音の出し方などの基礎練習に多くの時間が割かれました。

（写真上/鹿島中　下/原町二中

クリニックの時間中、協力いただいた三菱東京 UFJ 銀行の方が、「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」の一環で、学校の花壇再生として花を植えられました。

原町第一中学校は、部員は 50 人から 29 人に減りながらも、昨年は日本管楽合奏コンテスト A 部門では日本一(最優秀賞)になる等、一人一人がとても意欲的でした。伊達市立桃陵中学校は、福島県北部の内陸部にあり、部員の中には浪江町や大熊町から越してきた生徒もいました(部員 27 人)。「毎日の基礎練習の方法まで教わり、とてもためになりました」との感想をいただきました。また、学校の正門前には大きな花壇があり、三菱東京 UFJ 銀行の方が植えた花の苗が、美しく整然と並びました。

鹿島中学校は南相馬市の中でも原発から一番遠い学校のため、昨年 10 月まで周辺の 4 校が同居していました。周辺には仮設住宅も点在しています(部員は 15 人)。仮設住宅(集合住宅)に居るため隣りに気兼ねし、出したい音量で個人練習できない、という悩みを抱える部員もいました。

この日、全行程の送迎を含め現地でコーディネートしていただいた、NPO 法人自然環境応援団の上條大輔さんのガイドで、海岸付近に立寄りました。「津波が来る前、ここは住宅地だったんですよ」との説明が信じられないほど、何も無い整然とした更地が遥かに広がっていて、あまりの寂寥感に私たちは言葉を失い、立ち尽くすばかりでした。

原町第二中学校は、震災と原発の影響で全校の約半分が避難し転校していきました(部員は現在 14 人)。楽器にばらつきがあり、合奏もままならない状況とのことでしたが、「人数が減り、部員のモチベーションも下がりぎみでしたが、プロの方の演奏が新たな目標になりました」と、先生にも喜んでいただきました。

南相馬市は一部の地域を除き、避難区域の解除が進む等で、学校には徐々に生徒が戻ってきています。しかし転校せざるを得なかった吹奏楽部員の中には、「せめてクラブの盛んな学校に行きたい」と希望するケースも多いとのこと。仲間との別れを余儀なくされている吹奏楽部へのクリニック、今後も日本フィルは継続していきたいと思っています。

【埼玉県加須市　騎西コミュニティセンターで訪問コンサート】

３月 28 日(水)、埼玉県の騎西コミュニティセンターで、日本フィル弦楽四重奏団によるコンサートが開催されました。《主催/日本フィル、共催/(財)埼玉県産業文化センター、後援/加須市教育委員会》騎西町では、福島第一原発のある福島県双葉町の大勢の市民の方々（当初は約 1200 人、現在は約 400 人）が、避難生活を送っています。また、双葉町の役所機能は、現在でも旧埼玉県立騎西高校(避難所併設)に移転されたままになっています。メンバーは第一ヴァイオリン/神尾あずさ、今回司会を務めたチェロ/山田智樹（福島県三春町出身）、第二ヴァイオリン/豊田早織とヴィオラ/高橋智史は、昨年５月の騎西小学校での訪問コンサートにも出演しました。天気予報では雷やにわか雨の可能性もあり、日が暮れるにしたがって風が強くなりましたが、コンサートには、双葉町民の方々のほか、周辺地域にお住まいの方々も併せて、約 65 人のお客様にご来場いただきました。楽器の紹介、演奏にあわせてお客様が一緒に歌う曲を含めクラシック、日本民謡・ポップス、ミュージカルナンバーなど、10 曲以上で約１時間のステージとなりました。アンコールの『青い山脈』では、客席から自然と歌声が聞こえてきたり、手拍子が始まったりしました。終演後は、一人ひとりのお客様が係員に対し、口々にお礼を述べて帰られ、大変ご満足いただけた様子でした。福島県外に避難している町民のうち、約 1200 人が、まだ埼玉県内にお住まいとのこと。双葉町と埼玉県・加須市だけでなく、今後も震災や原発事故で避難生活を送っている方々と地域の方々との交流のお役にたてる機会があれば、積極的に関わって行きたいと考えています。

【福島県三春町　三春小学校でマイク・スペンサーとワークショップ】

ロンドンオリンピックの開催にあわせ、世界中に日本を再発見してもらうことを目的としたイベント「JAPAN Festival 2012 in LONDON」の大会会長に、日本フィルとはエデュケーションプログラムを通じ強いきずなで結ばれたマイク・スペンサーが就任しました。世界中からの震災支援に向けて日本からの「ありがとう」と「元気」を発信するという大会趣旨の一環で、３月 28 日に福島県で「四季」ワークショップをすることになりました。
舞台は三春小学校。春休みに 30 人の子どもたちが集まり、マイクと日本フィルのメンバー（ヴァイオリン佐々木裕司、ヴィオラ中川裕美子、チェロ江原望、トロンボーン伊波睦）と、自分たちの「春」を作曲し、ヴィヴァルディの「春」を体験していくというワークショップを一日かけて行いました。三春の子どもたちは明るく素直で、避難所から学校へ通っている子も参加しました。

【被災１周年　杉並区南相馬復興支援式典で南相馬の子どもたちと共演】

３月 11 日、東日本大震災１周年の日、杉並区と災害時相互援助協定を結んでいる南相馬の復興支援の式典が杉並公会堂で行われました。日本フィルのカルテットと南相馬の子どもたちの歌が共演しました。５歳から中２までの９人がマイクロバスでやって来ました。避難先から帰ってきた子、家族がバラバラに暮らしている子、ずっといた子、それぞれ原発事故後の不条理な環境の中を過ごしてきました。
杉並公会堂 800 人の人たちを前に、「きみとぼくのラララ」「ともだちになるために」「ビリーブ」の ３ 曲を歌い、堂々南相馬代表役を果たしました。会場を埋めた区民のみなさんたちに共感の涙を誘いました。
被災地支援で一番大切なことは、子どもを守ること、彼らこそ希望であり、どんな演説より子どもの歌声は人を感動させると改めて感じさせました。

＜本号掲載の訪問先＞
３月 27 日福島県南相馬市原町第一中学校(ブラスクリニック)
28 日福島県伊達市桃陵中学校(ブラスクリニック)
29 日福島県南相馬市鹿島中学校(ブラスクリニック)
３０日　　同市原町第二中学校(ブラスクリニック)
３月 28 日福島県三春町　三春小学校（ワークショップ）
埼玉県加須市騎西コミュニティセンター

発行：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団
〒166－0011 東京都杉並区梅里 1－6－1
Tel：03－5378－6311　Fax：03－5378－6161
http:/www.japanphil.or.jp
E-mail:office@japanphil.or.jp
発行日：2013 年 9 月 1 日